

2022年度日商「地域診断サービス」
B-2タイプ

倉吉市の地域経済分析について

(地域診断サービス)

2022年12月

日本商工会議所 地域振興部

はじめに	2
生産分析（産業構造）	8
分配・支出分析	16
生産分析（観光）	23
地域経済循環・推移傾向	35
【参考】 統計情報について	40

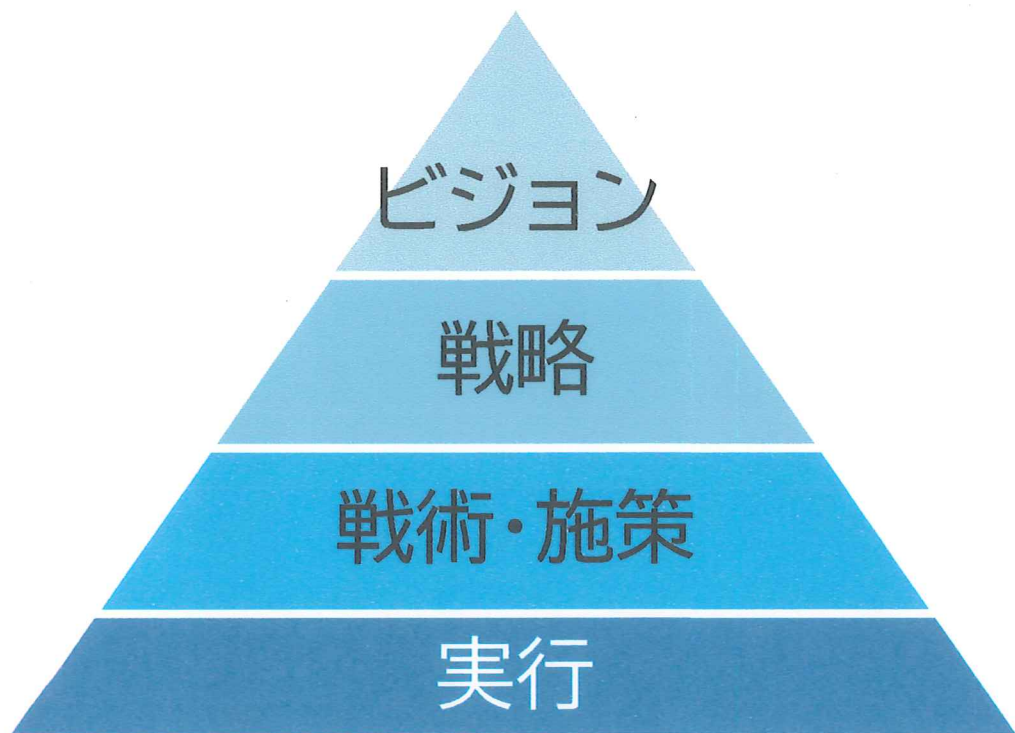
はじめに

■ 日本商工会議所地域振興部の役割

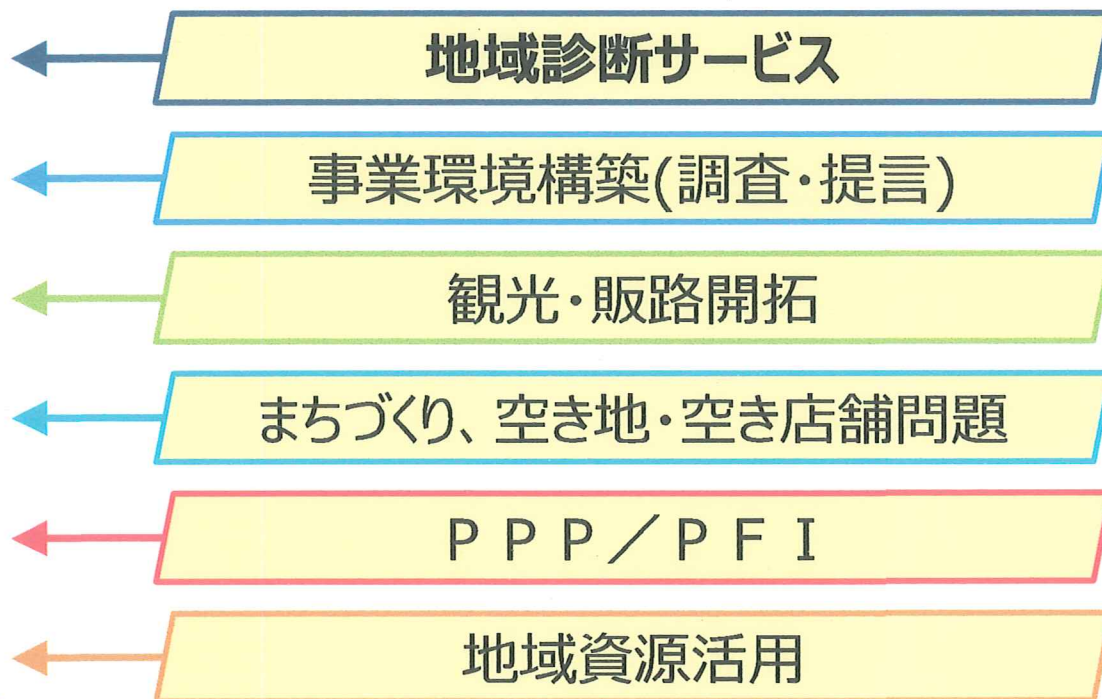
各地商工会議所において、それぞれの地域の活性化に向けた取り組みを行うよう促し、それらの取り組みを伴走支援すること

- 本サービスでは、**地域の強み・弱みを「見える化」**することによって、域外需要獲得などに向けた、**地域のビジョンや戦略などを検討**するお手伝いをします。

【各地での取り組み】

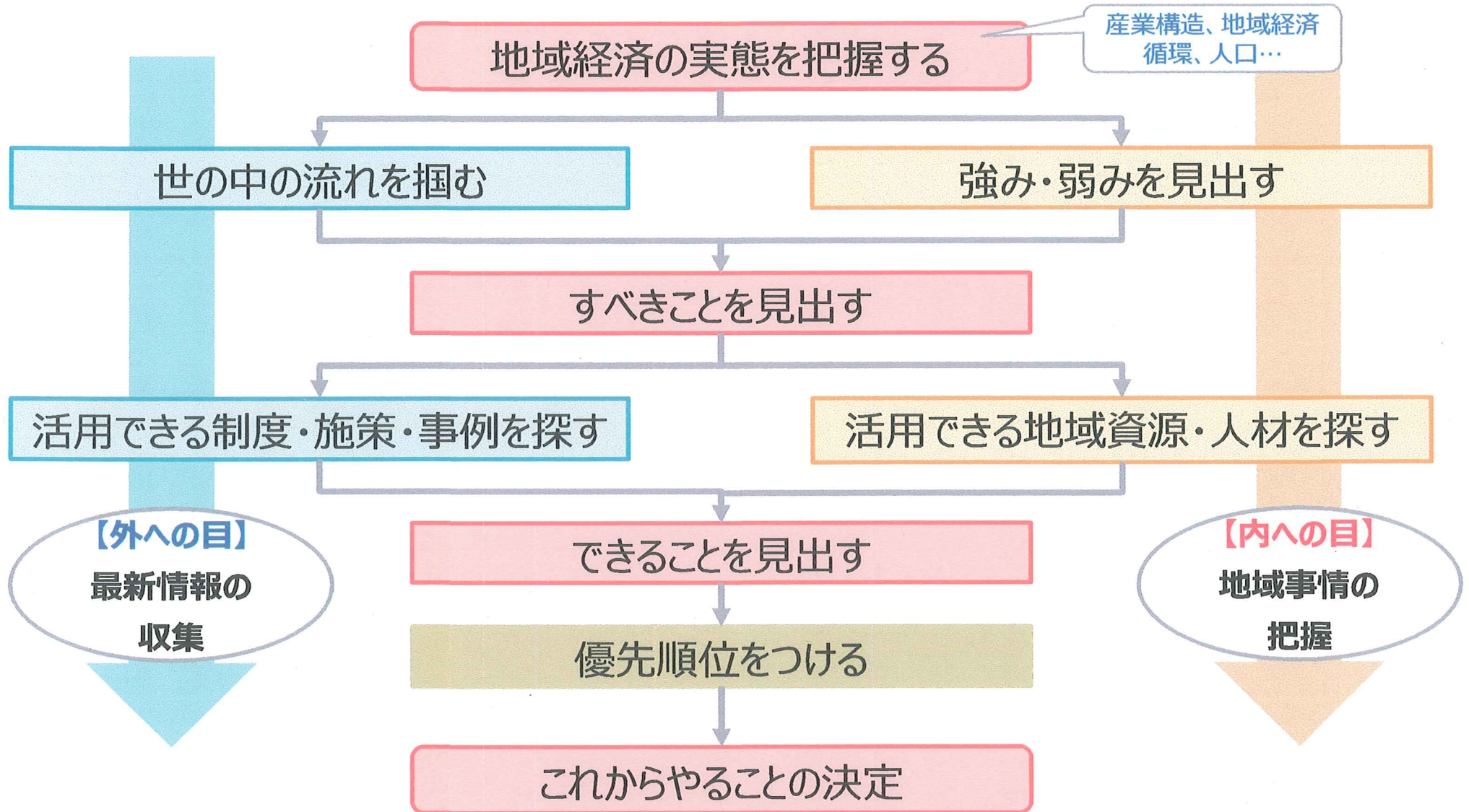


【地域振興部の主な活動分野】

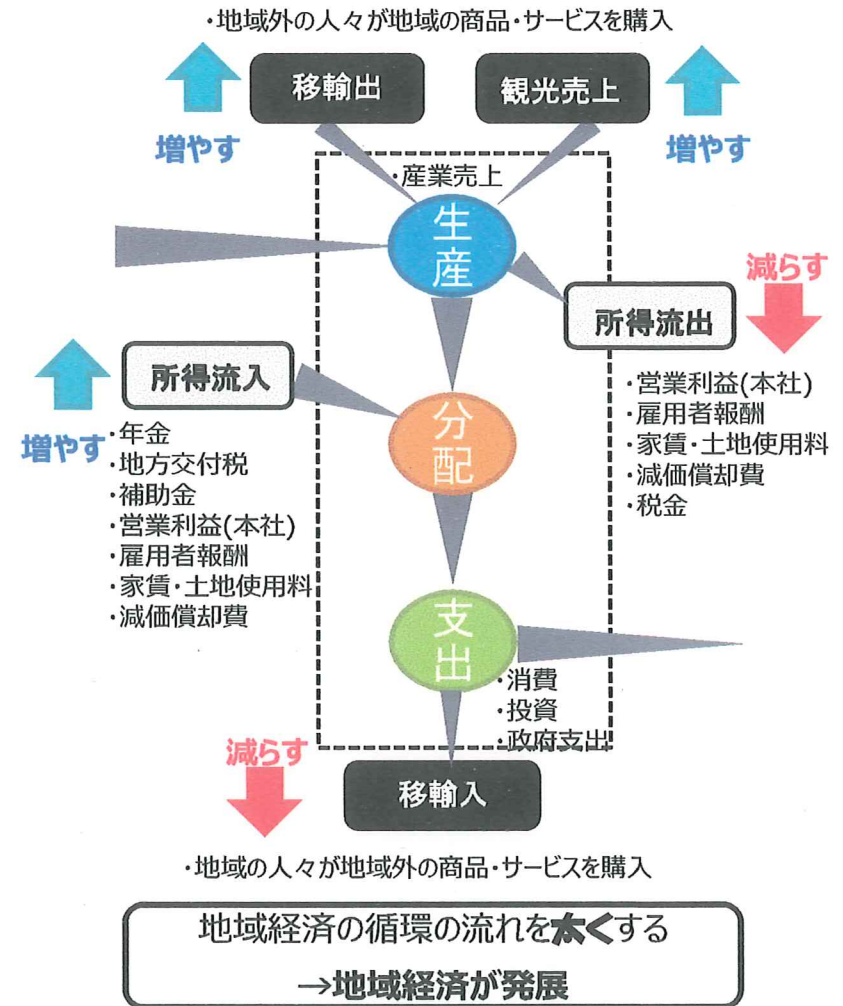
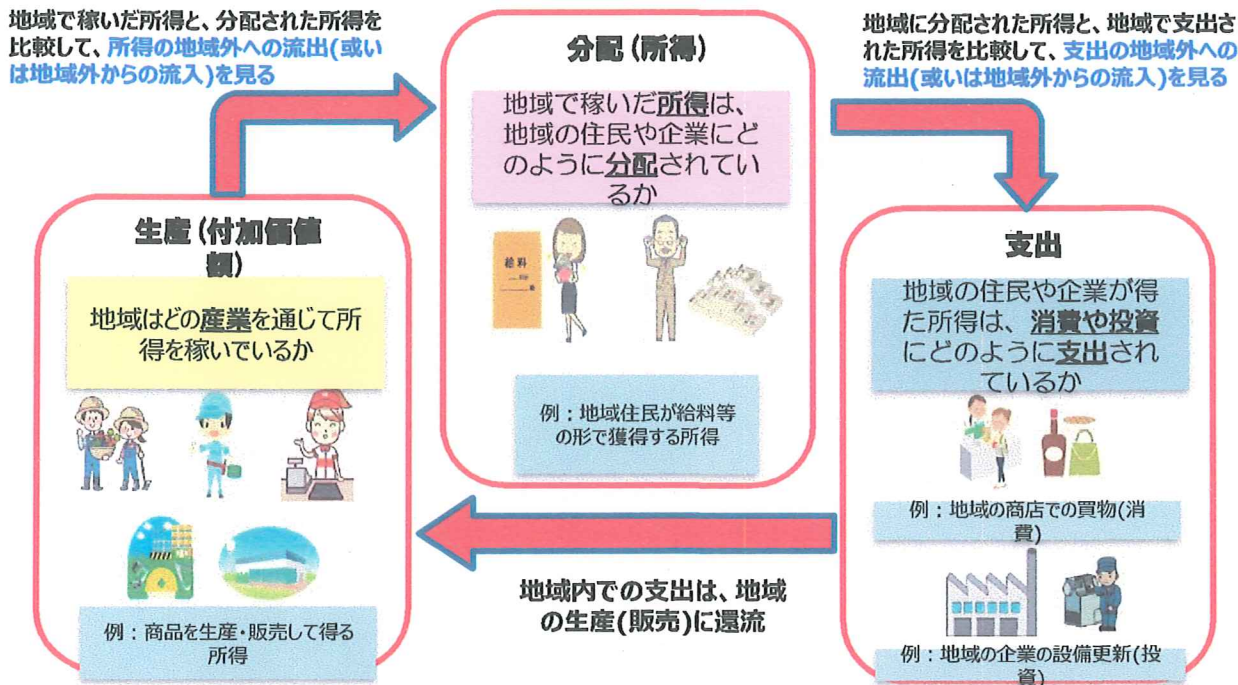


地域経済の分析はなぜ必要か

- 地域経済の実態把握を皮切りに、外に目を向けた「**最新情報の収集**(世の中の流れ、活用できる制度・施策・事例)」や、内に目を向けた「**地域事情の把握**(強み・弱み、活用できる地域資源・人材の把握)」を進め、**すべきこと・できること**を見出し、その中から**優先順位**を決めて、これからやることを決定する。

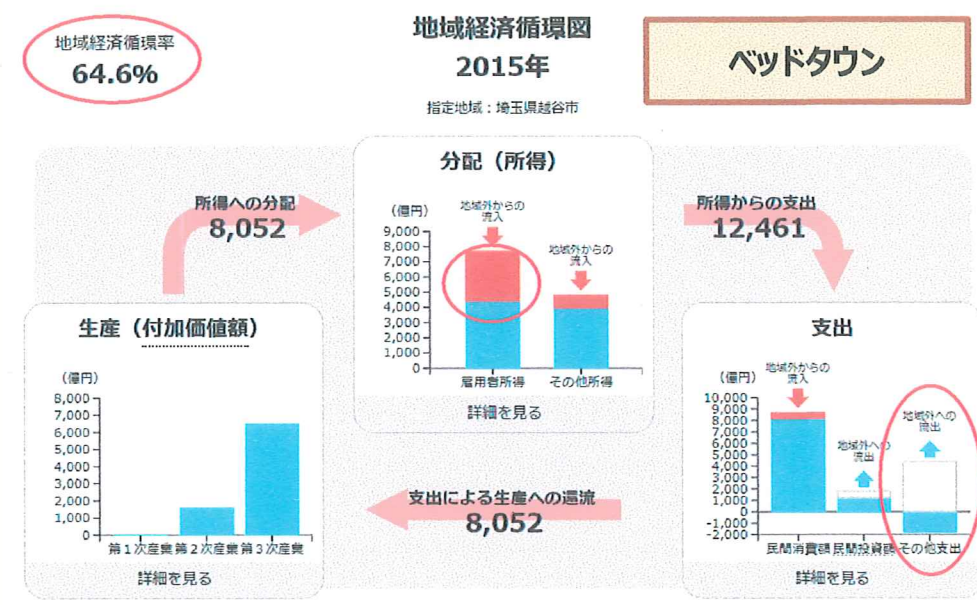
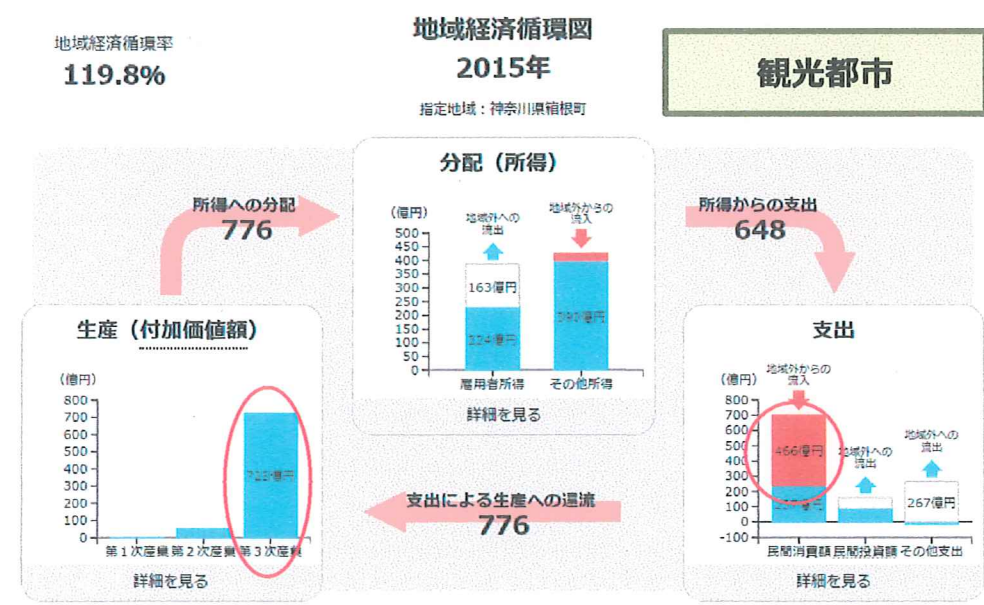
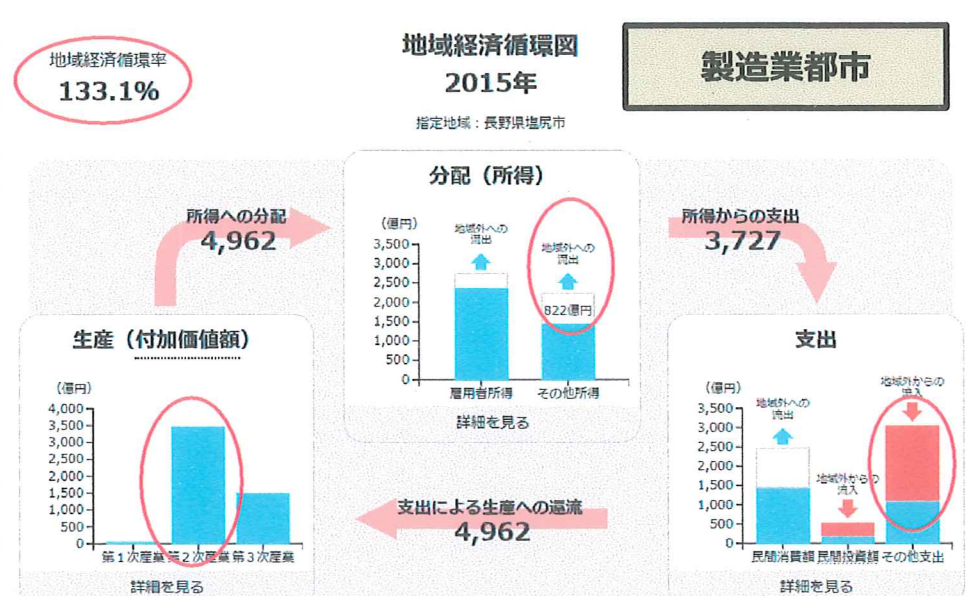
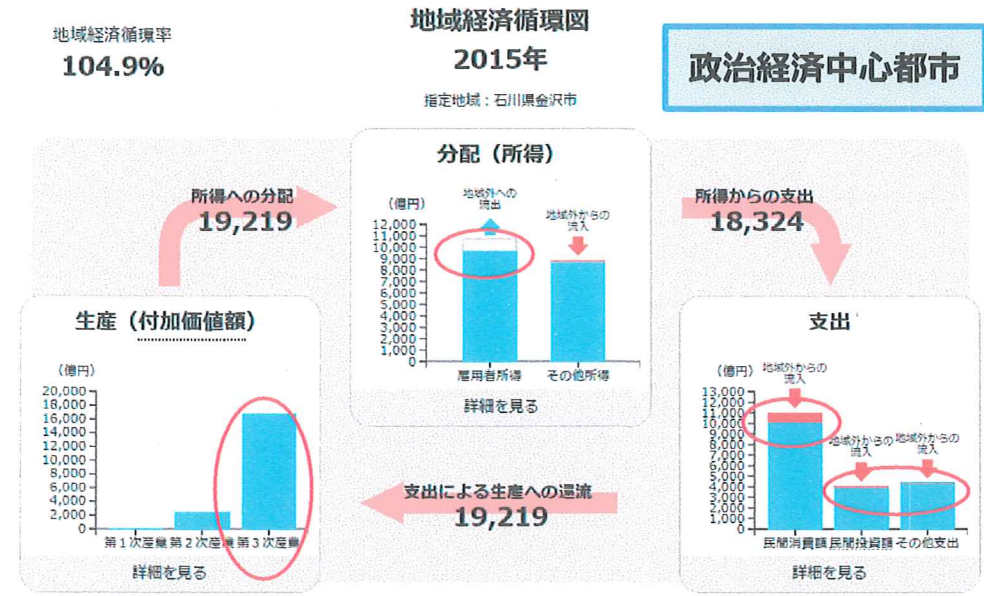


- 経済活動の三側面である「**生産**(販売ほか収入)で得られた収入」≡「家計・企業への**分配**」≡「消費・投資の形での**支出**」の関係性を「**三面等価原則**」という。
- 三面等価原則から、経済を「生産」→「分配」→「支出」→「生産」・・・という循環する流れと捉えることができるが、特に地域経済においては、循環途中に生じる「**移輸出入**」や「**所得移転**」といった**地域外との流出入**が重要となる。
- 地域経済の循環の流れを太くすることは、地域経済の発展につながる。具体的には「**移輸出**」「**観光売上**」「**所得流入**」を増やす一方、「**所得流出**」「**移輸入**」を減らすことである。
- RESASでは、各種統計数値に、関連統計を用いて推計した数値を合わせることで、地域における経済の循環構造をわかりやすく「見える化」した「**地域経済循環図**」を公表している。



地域経済循環図からみる地域経済の特徴

■ 地域経済循環図を分析することで、地域における経済構造の特徴を掴むことができる。

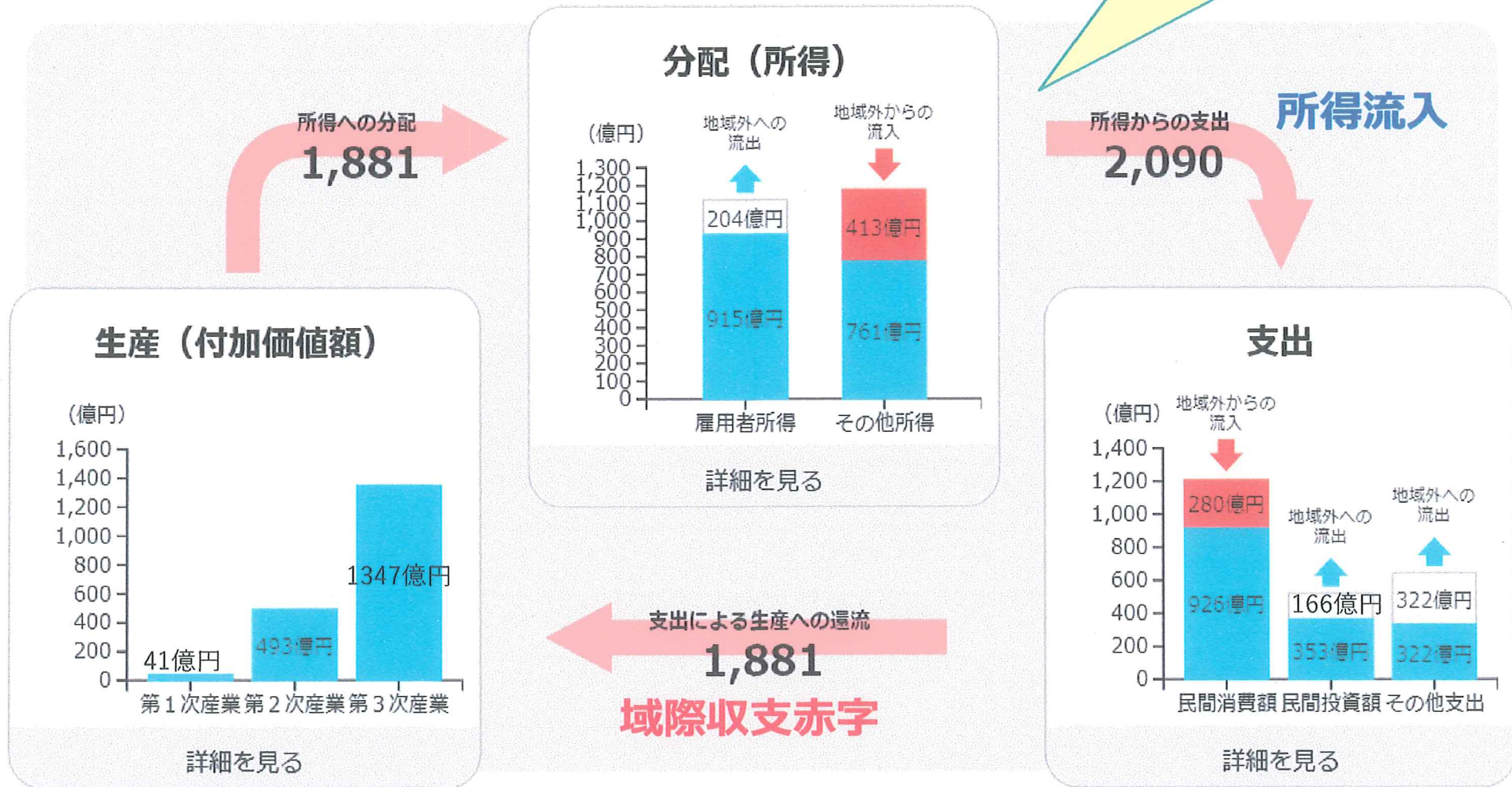


地域経済循環率
90.0%

地域経済循環図 2018年

指定地域：鳥取県倉吉市

地方交付税交付金	73億円
国庫支出金	35億円
都道府県支出金	24億円
年金	211億円



※RESASでの算出上、所得流入は域際収支とバランスするという
仮定だが、現実の地域経済ではプラス・マイナスが生じる点に注意。

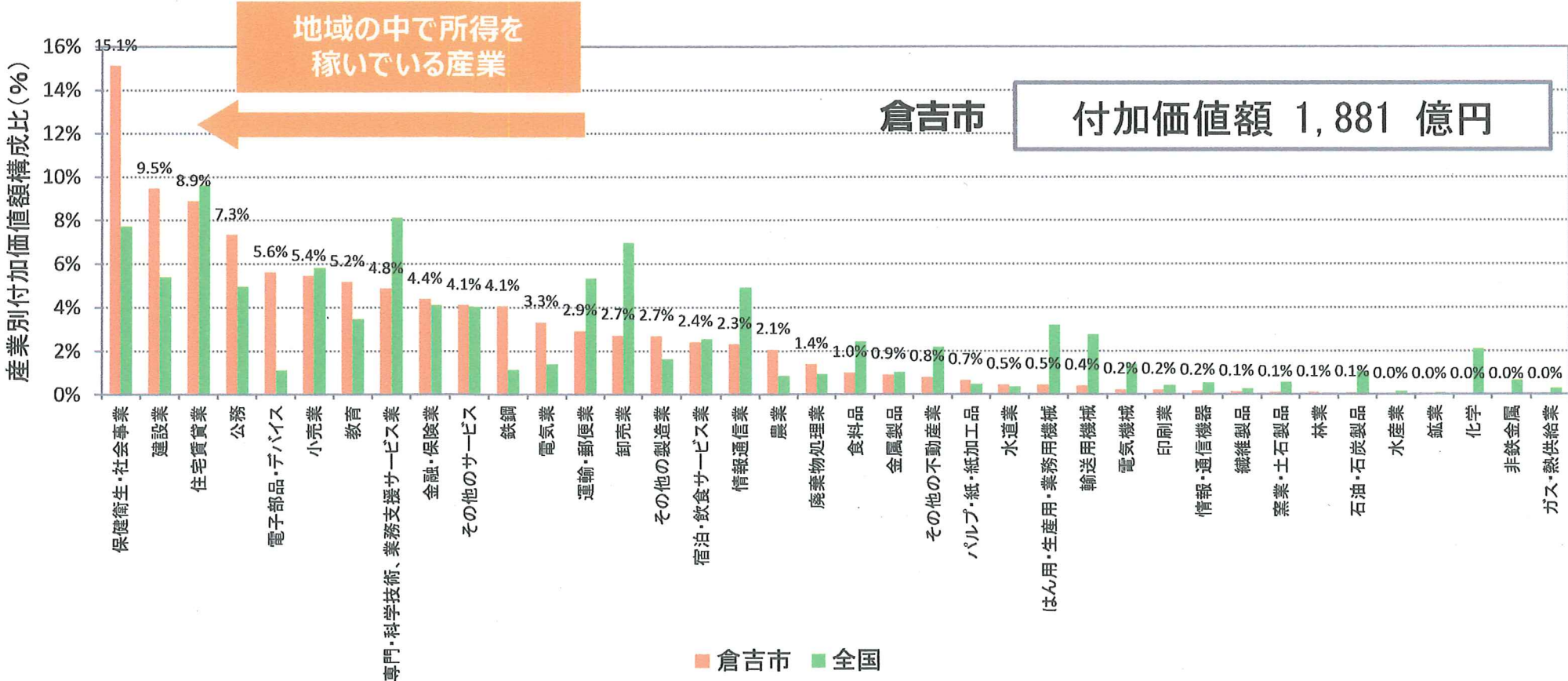
出典：環境省「地域産業連関表」、「地域経済計算」
(株式会社価値総合研究所 (日本政策投資銀行グループ) 受託作成)

生産分析（産業構造）

地域で所得(付加価値)を稼いでいる産業は何か

- 付加価値額が大きな産業は、保健衛生・社会事業、建設業、建設業、住宅賃貸業、公務で、これらの産業が地域を支えている。
- 付加価値額のうち、第1次産業が2.2%、第2次産業が26.2%、第3次産業が71.6%を占める。
(全国平均：1次産業：1.1%、2次産業：26.6%、3次産業：72.3%)

産業別付加価値額



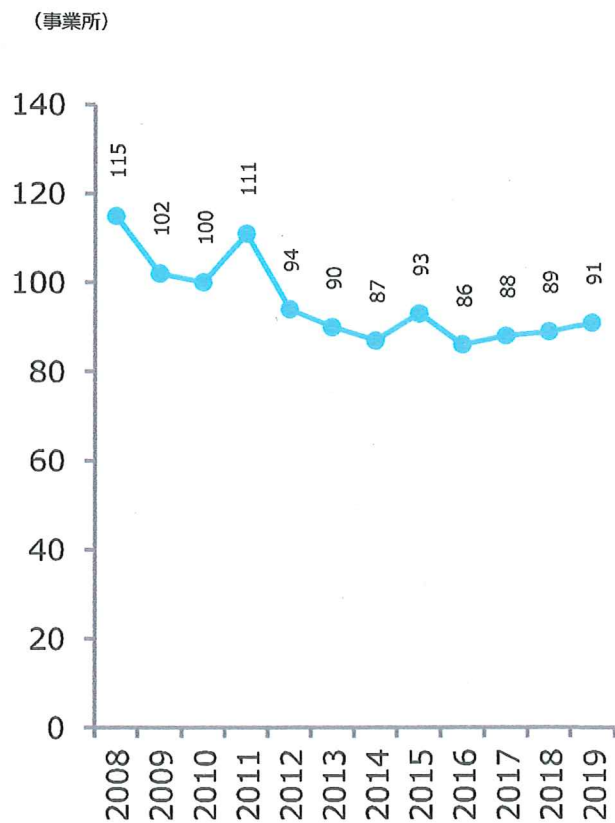
注)GDP統計の不動産業には帰属家賃が含まれており、地域経済循環分析用データの産業分類では第3次産業の住宅賃貸業に帰属家賃が含まれている。帰属家賃は、実際には家賃の受払いを伴わないものである。

出典：環境省「地域経済循環分析用データ」、総務省統計局「国勢調査」より作成

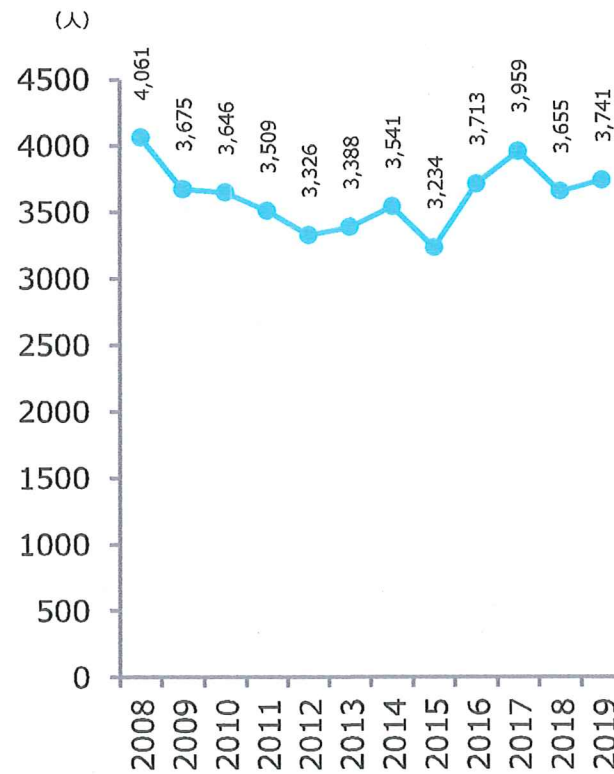
製造業事業所数・従業者数・製造品出荷額等の推移

- 製造業の事業所数、従業者数は減少傾向にあったが、概ね2016年に下げ止まった。以降はやや増加している。
- 製造品出荷額は2008年→2009年で急減して以降、右肩上がりの傾向だったが、2017年以降はやや減少している。

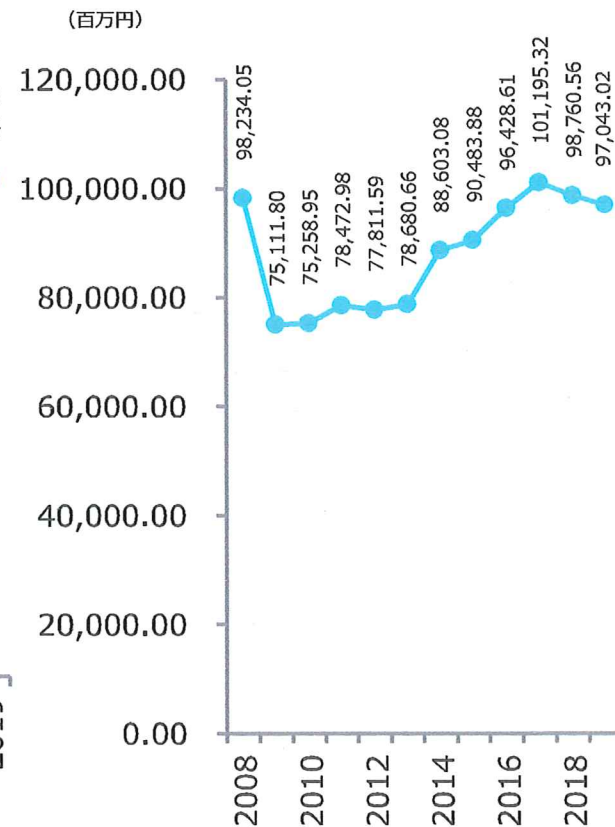
事業所数



従業者数



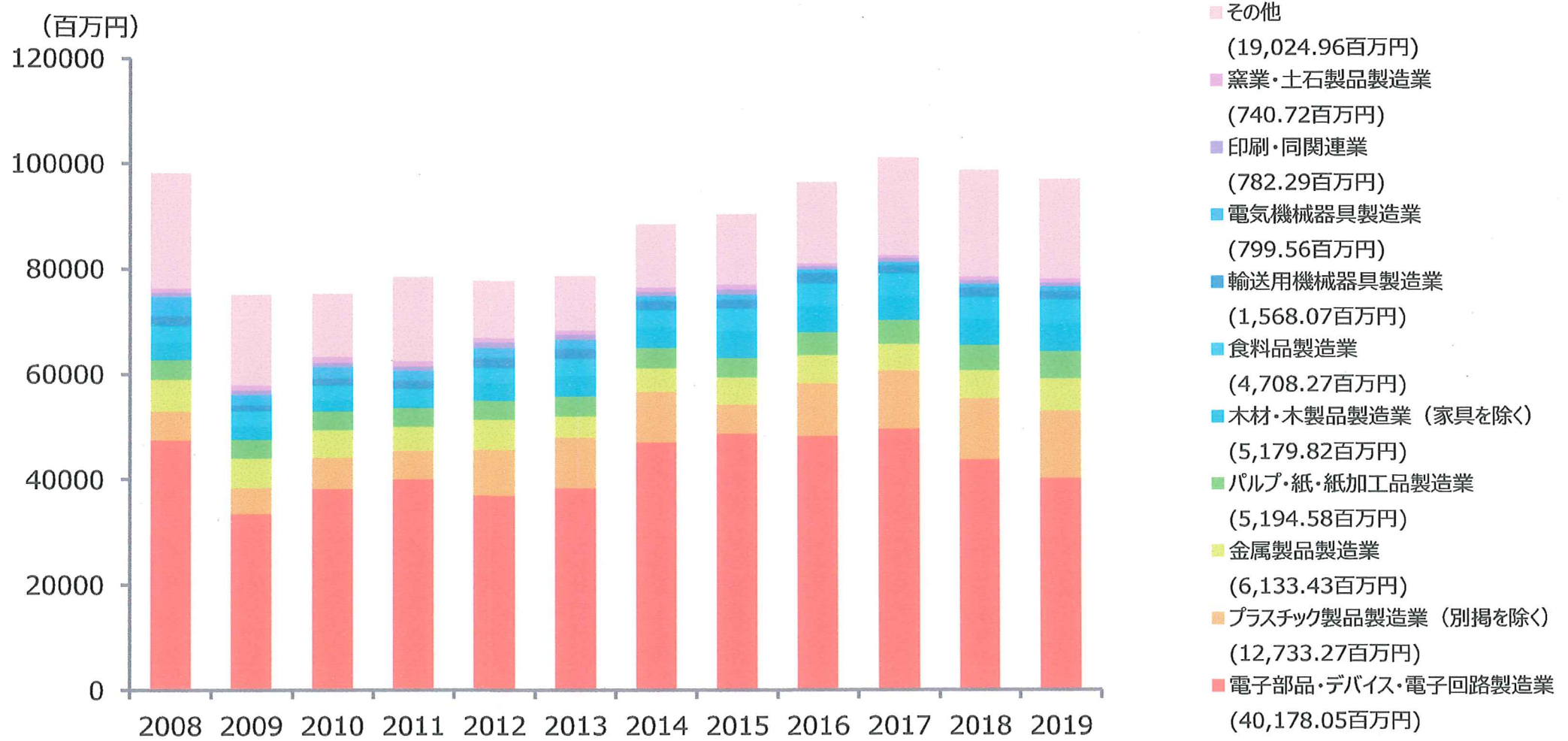
製造品出荷額等



出典： 経済産業省「工業統計調査」再編加工、総務省・経済産業省「経済センサス-活動調査」再編加工、総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」
留意点： 従業員数4人以上の事業所が対象。

産業別製造品出荷額等の変化

- 製造品出荷額の内訳は、電子部品・デバイス・電子回路製造業、プラスチック製品製造業が大部分を占める。
- 上下変動の要因は主に電子部品・デバイス・電子回路製造業によるもの。近年は、プラスチック製品製造業、木材・木製品製造業が拡大傾向にある。

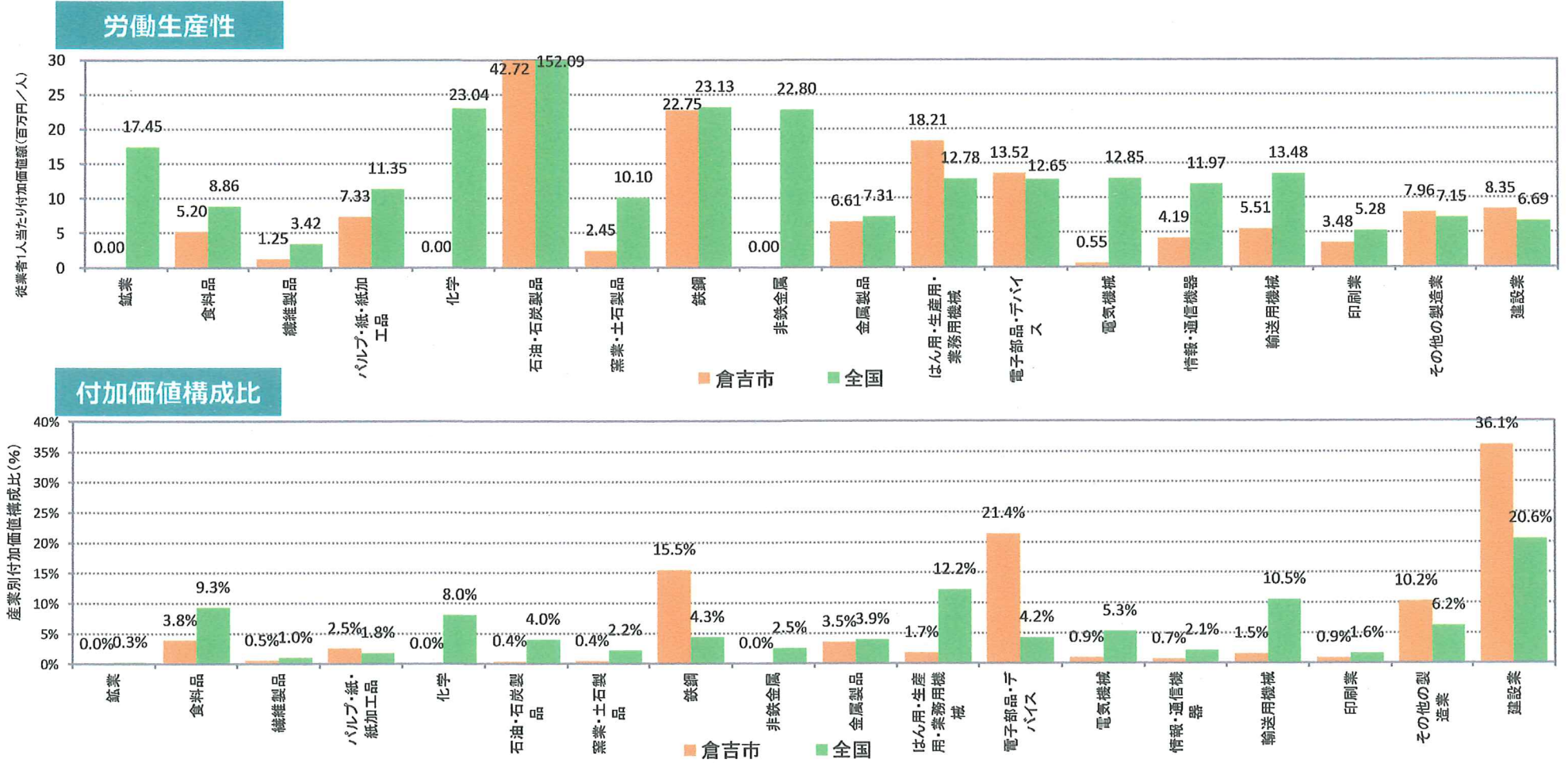


出典： 経済産業省「工業統計調査」再編加工、総務省・経済産業省「経済センサス－活動調査」再編加工、総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」
 留意点： 凡例の数値は最新年の数値を指す。従業員数4人以上の事業所が対象。

2次産業の稼ぐ力(1人当たり付加価値額)

倉吉市では、第2次産業のうち建設業の付加価値構成比が最も高く、労働生産性も全国より高い。

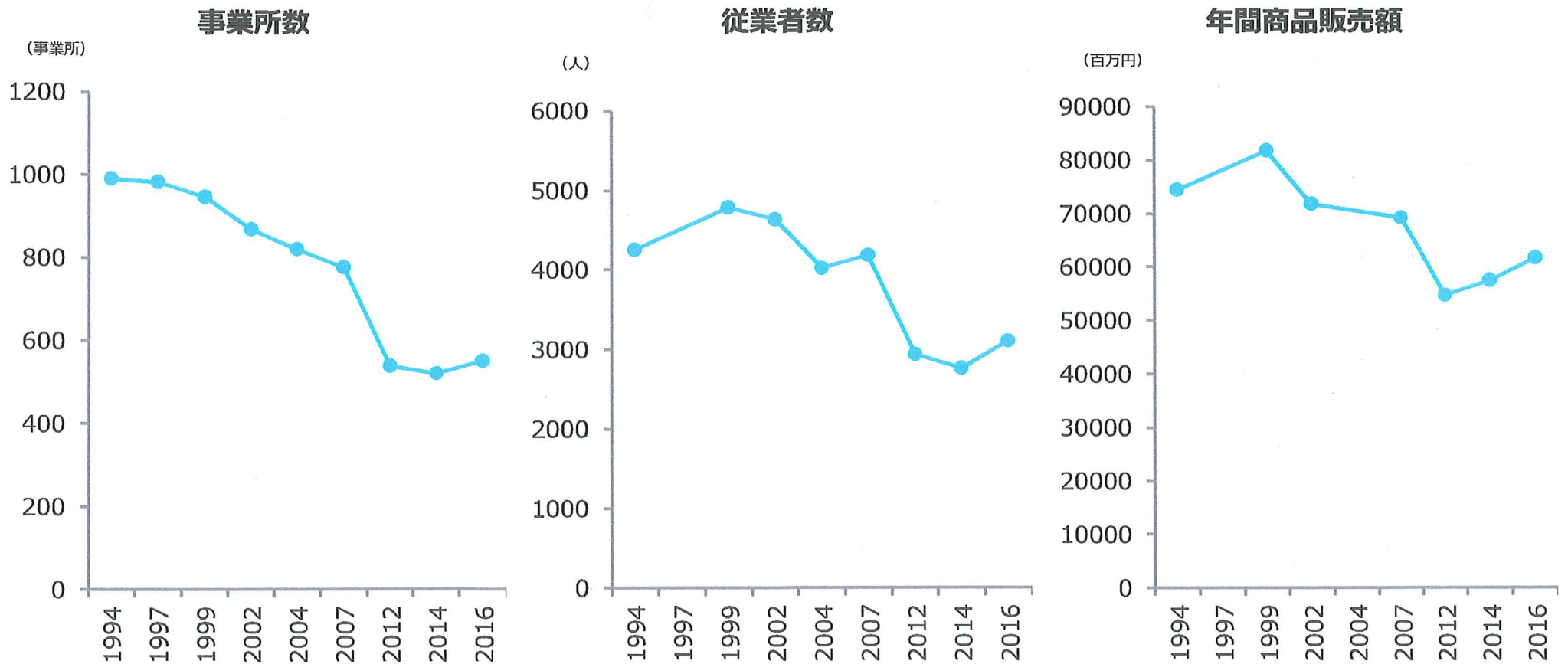
第2次産業の産業別労働生産性及び付加価値の構成比



出典：環境省「地域経済循環分析用データ」、総務省統計局「国勢調査」より作成

注)GDP統計の不動産業には帰属家賃が含まれており、地域経済循環分析用データの産業分類では第3次産業の住宅賃貸業に帰属家賃が含まれている。帰属家賃は、実際には家賃の受払いを伴わないものであるため、これを含む場合と含まない場合の2パターンで労働生産性を作成している。

■ 小売業の事業所数、従業者数は2007年→2012年に急減したが、以降はやや回復基調にある。

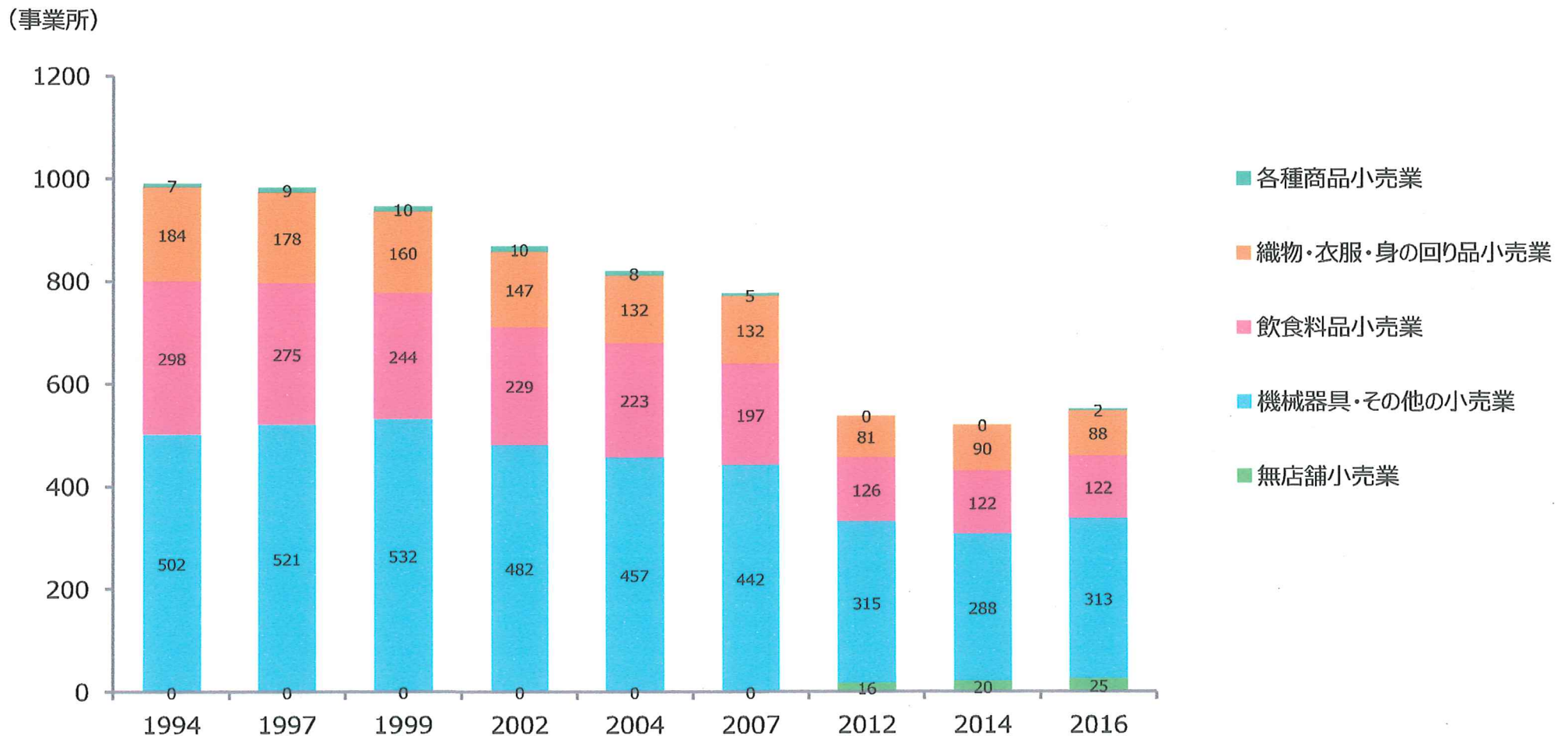


出典：経済産業省「商業統計調査」 総務省・経済産業省「経済センサス-活動調査」

注記：2007年以降は、日本標準産業分類の大幅改定の影響や、「商業統計調査」と「経済センサス-活動調査」の集計対象範囲の違い等から、単純に調査年間(表示年)の比較が行えない。

産業別小売業事業所数の変化

- 小売業事業所数の内訳は、機械器具・その他の小売業が大部分を占めている。
- 1994年から2016年にかけて、最も減少が大きいのは機械器具・その他小売業(▲189社)で、次いで飲食料品小売業(▲176社)。



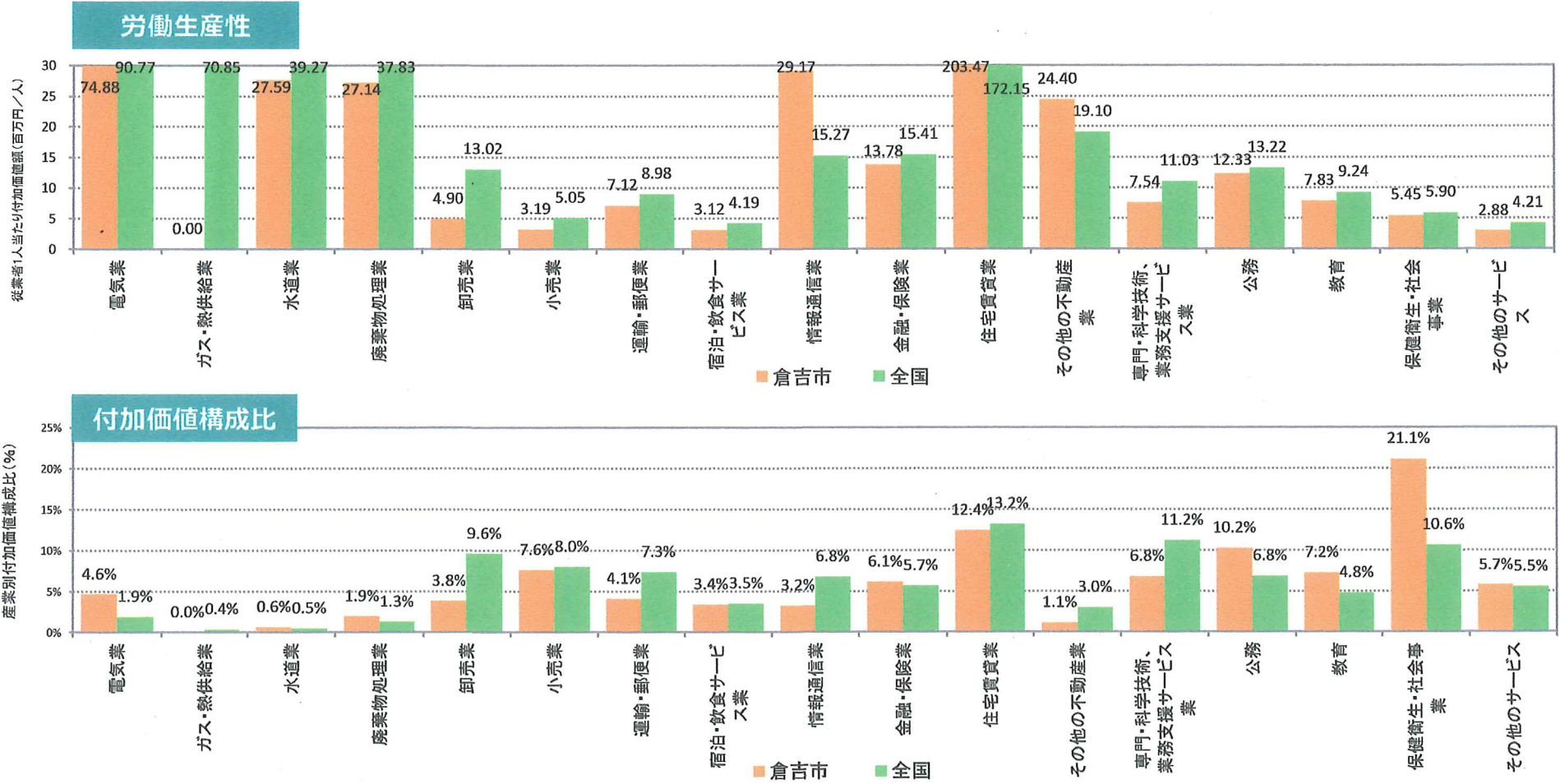
出典：経済産業省「商業統計調査」 総務省・経済産業省「経済センサス－活動調査」

注記：2007年以降は、日本標準産業分類の大幅改定の影響や、「商業統計調査」と「経済センサス－活動調査」の集計対象範囲の違い等から、単純に調査年間(表示年)の比較が行えない。

3次産業の稼ぐ力(1人当たり付加価値額)

倉吉市では、第3次産業のうち保健衛生・社会事業の付加価値構成比が最も高いが、労働生産性は全国よりも低い
次いで住宅賃貸業の付加価値構成比が高く、労働生産性も全国より高い。

第3次産業の産業別労働生産性及び付加価値の構成比



出典：環境省「地域経済循環分析用データ」、総務省統計局「国勢調査」より作成

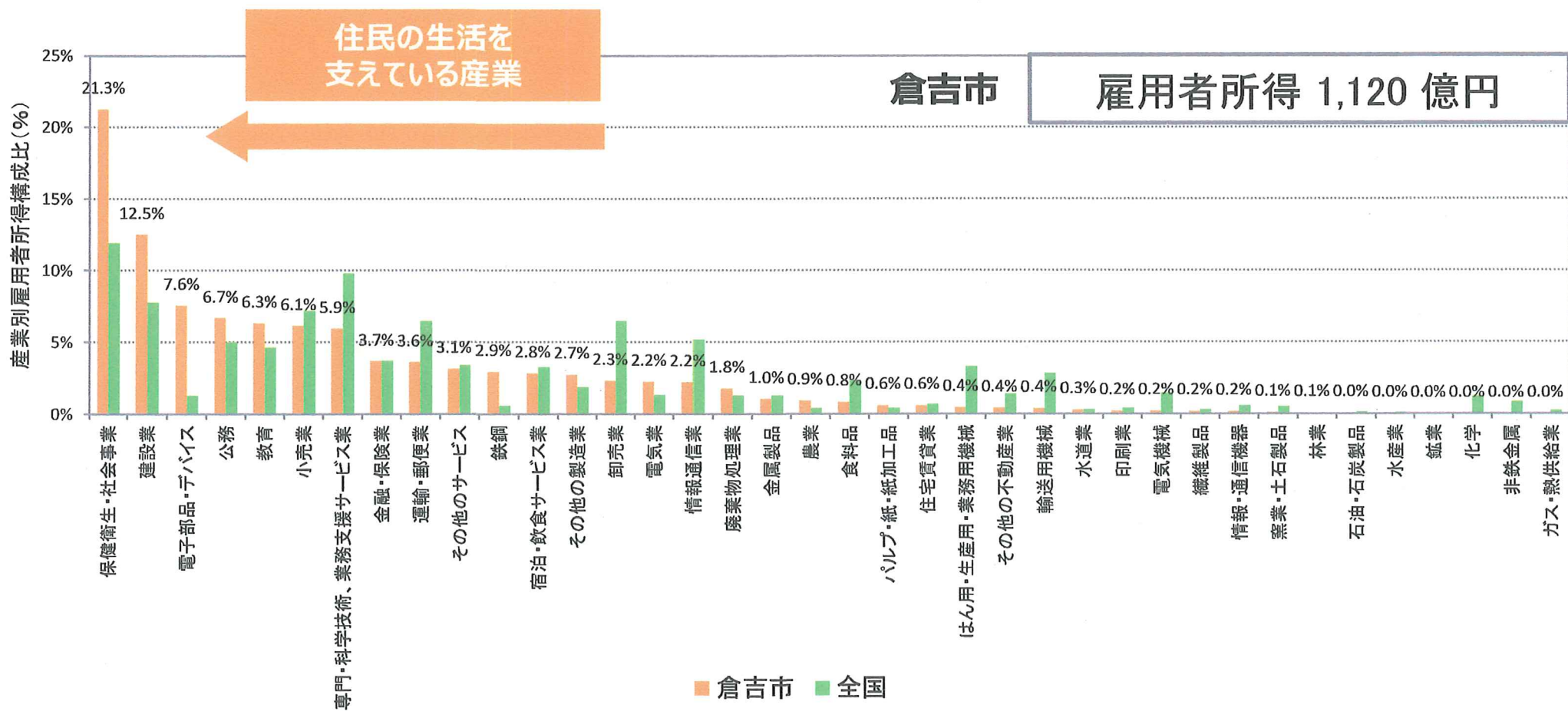
注)GDP統計の不動産業には帰属家賃が含まれており、地域経済循環分析用データの産業分類では第3次産業の住宅賃貸業に帰属家賃が含まれている。帰属家賃は、実際には家賃の受払いを伴わないものであるため、これを含む場合と含まない場合の2パターンで労働生産性を作成している。

分配・支出分析

雇用者所得を生み出している産業は何か

■ 住民の生活を支える雇用者所得への寄与が大きい産業は、保健衛生・社会事業、建設業、電子部品・デバイス、公務、教育である。

産業別雇用者所得構成比

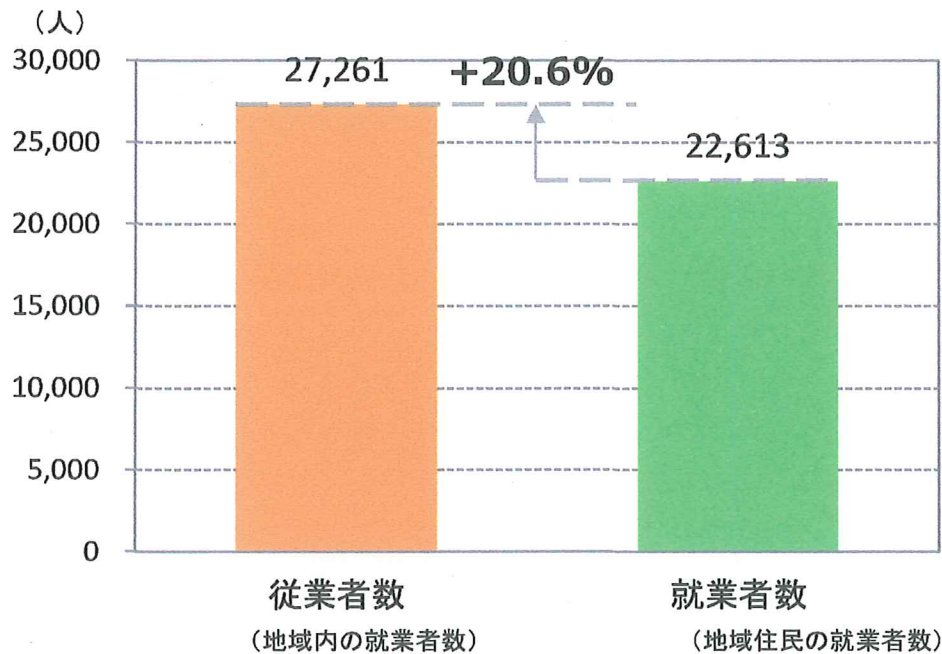


出典：環境省「地域経済循環分析用データ」、総務省統計局「国勢調査」より作成

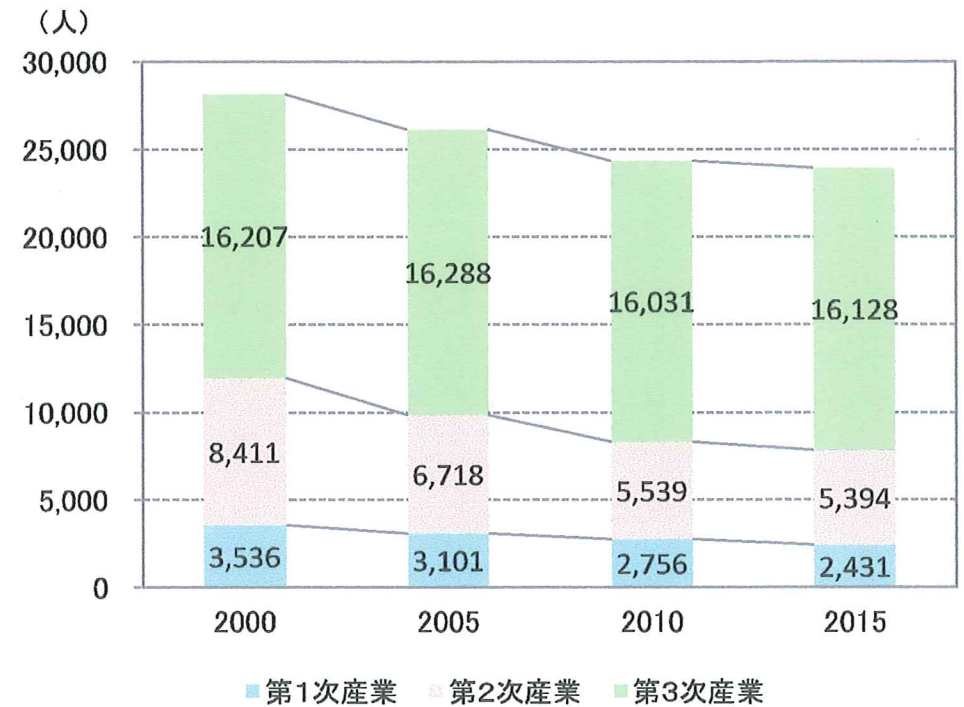
注) GDP統計の不動産業には帰属家賃が含まれており、地域経済循環分析用データの産業分類では第3次産業の住宅賃貸業に帰属家賃が含まれている。帰属家賃は、実際には家賃の受払いを伴わないものであるため、これを含む場合と含まない場合の2パターンで労働生産性を作成している。

- 従業者数(地域内の仕事の数)が就業者数(働いている住民の数)の+20.6%で、域外の住民が域内に働きに来ている
- 2015年の就業者数は2000年と比較して減少している。産業別には、第1次産業、第2次産業、第3次産業の全てで減少している。

① 就業者数と従業者数(2015年)



② 産業別就業者数の推移



注) 従業者数は、従業地における就業者の数(域外からの通勤者を含む)である。
 就業者数は、常住地の住民の就業者の数(域外への通勤者を含む)である。
 出所：総務省「国勢調査」より作成

出所：総務省「国勢調査」より作成

- 昼間人口が夜間人口を上回っており、域外の住民が通勤、通学のために域内に来ている状況。
- 域外から域内への流入元地域は、湯梨浜町、北栄町、琴浦町等。
- 域内から域外への流出先地域は、概ね上記と同様の傾向。

2020年 鳥取県倉吉市

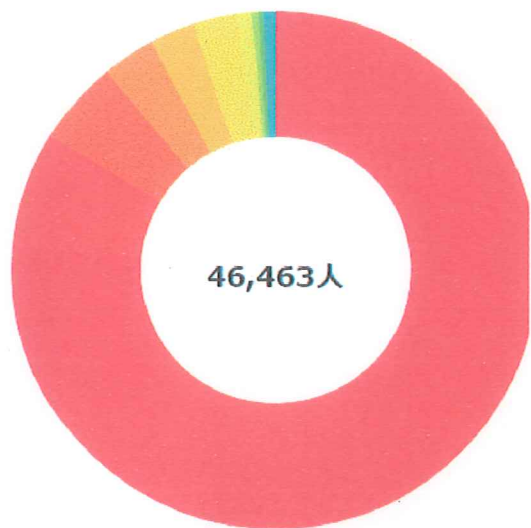
昼間人口：46,463人

夜間人口：40,762人

(昼夜間人口比率：113.99%)

昼間人口

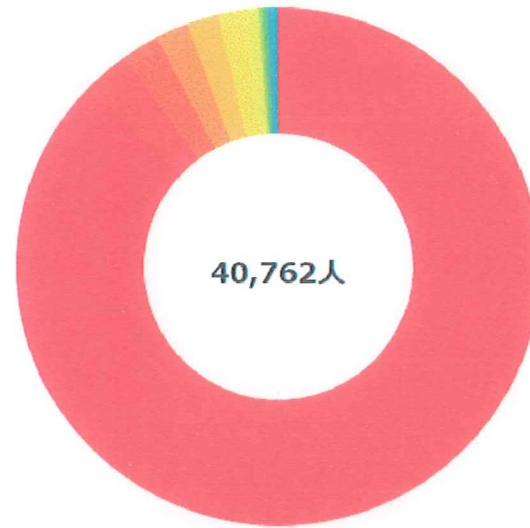
(指定地域内に日中滞在する人の居住地)



- 1位 鳥取県倉吉市 35,573人 (76.56%)
- 2位 鳥取県湯梨浜町 3,288人 (7.08%)
- 3位 鳥取県北栄町 2,396人 (5.16%)
- 4位 鳥取県琴浦町 1,534人 (3.30%)
- 5位 鳥取県鳥取市 1,330人 (2.86%)
- 6位 鳥取県三朝町 1,260人 (2.71%)
- 7位 鳥取県米子市 415人 (0.89%)
- 8位 鳥取県大山町 186人 (0.40%)
- 9位 岡山県真庭市 113人 (0.24%)
- 10位 鳥取県八頭町 53人 (0.11%)
- その他 315人 (0.69%)

夜間人口

(指定地域内に居住する人の日中の滞在地)



- 1位 鳥取県倉吉市 35,573人 (87.27%)
- 2位 鳥取県北栄町 1,122人 (2.75%)
- 3位 鳥取県湯梨浜町 954人 (2.34%)
- 4位 鳥取県琴浦町 824人 (2.02%)
- 5位 鳥取県鳥取市 809人 (1.98%)
- 6位 鳥取県三朝町 648人 (1.59%)
- 7位 鳥取県米子市 361人 (0.89%)
- 8位 岡山県真庭市 101人 (0.25%)
- 9位 岡山県鏡野町 80人 (0.20%)
- 10位 鳥取県大山町 62人 (0.15%)
- その他 228人 (0.56%)

注)昼間人口：就業者または通学者が就業・通学している就業地・通学地による人口であり、就業地・通学地集計の結果を用いて算出された人口。

夜間人口：地域に常住している人口である。

昼夜間人口比率：夜間人口100人当たりの昼間人口の割合であり、100を超えているときは通勤・通学人口の流入超過、100を下回っているときは流出超過を示している。

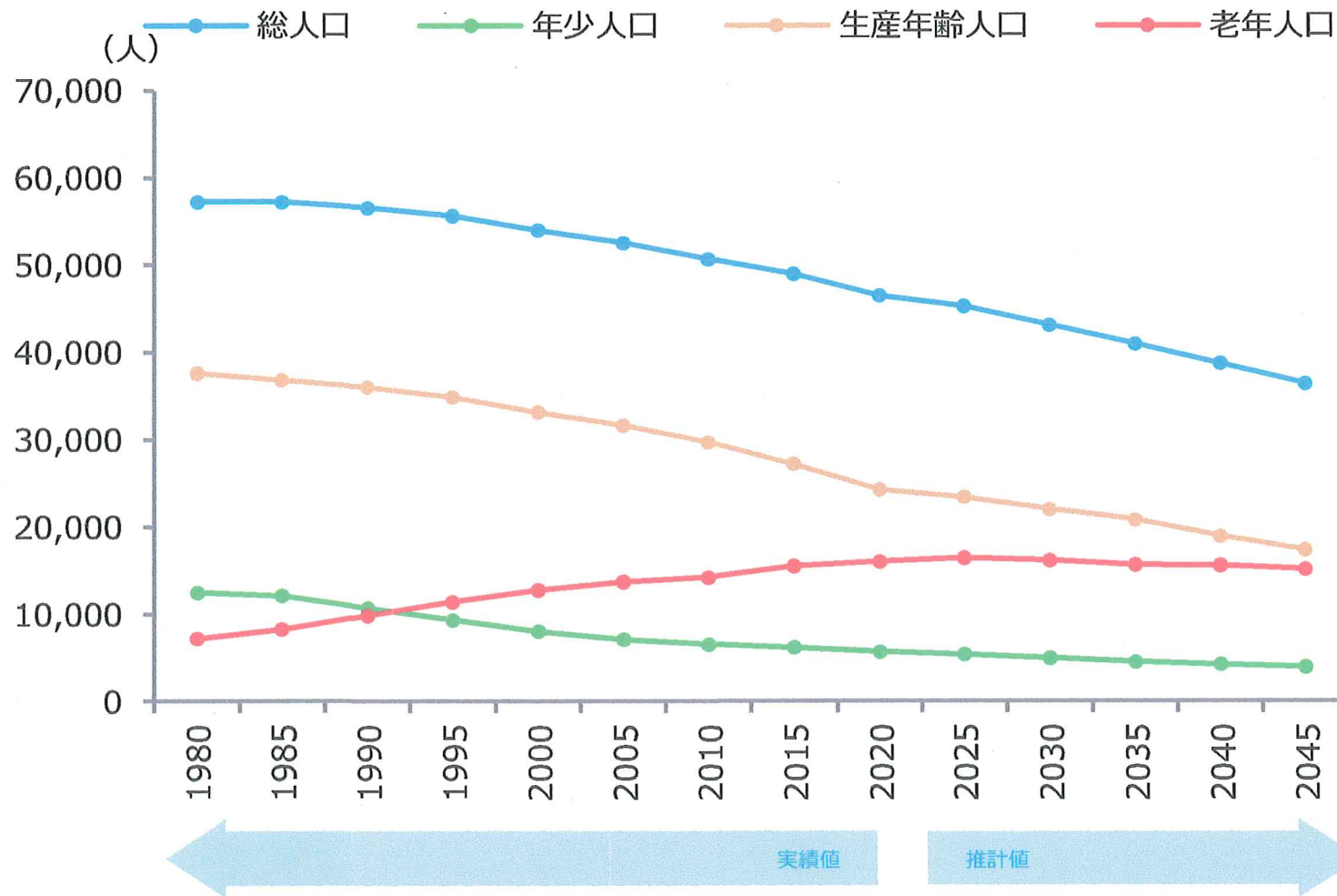
通勤者：自宅以外の場所で就業する者。

通学者：この画面においては、15歳以上の主に通学(各種学校・専修学校を含む)をしている者。

「滞在人口の月別推移」ページで使用している昼間人口等は、出典が株式会社NTTドコモ・株式会社ドコモ・インサイトマーケティング「モバイル空間統計®」であるため、数値が異なる場合がある。

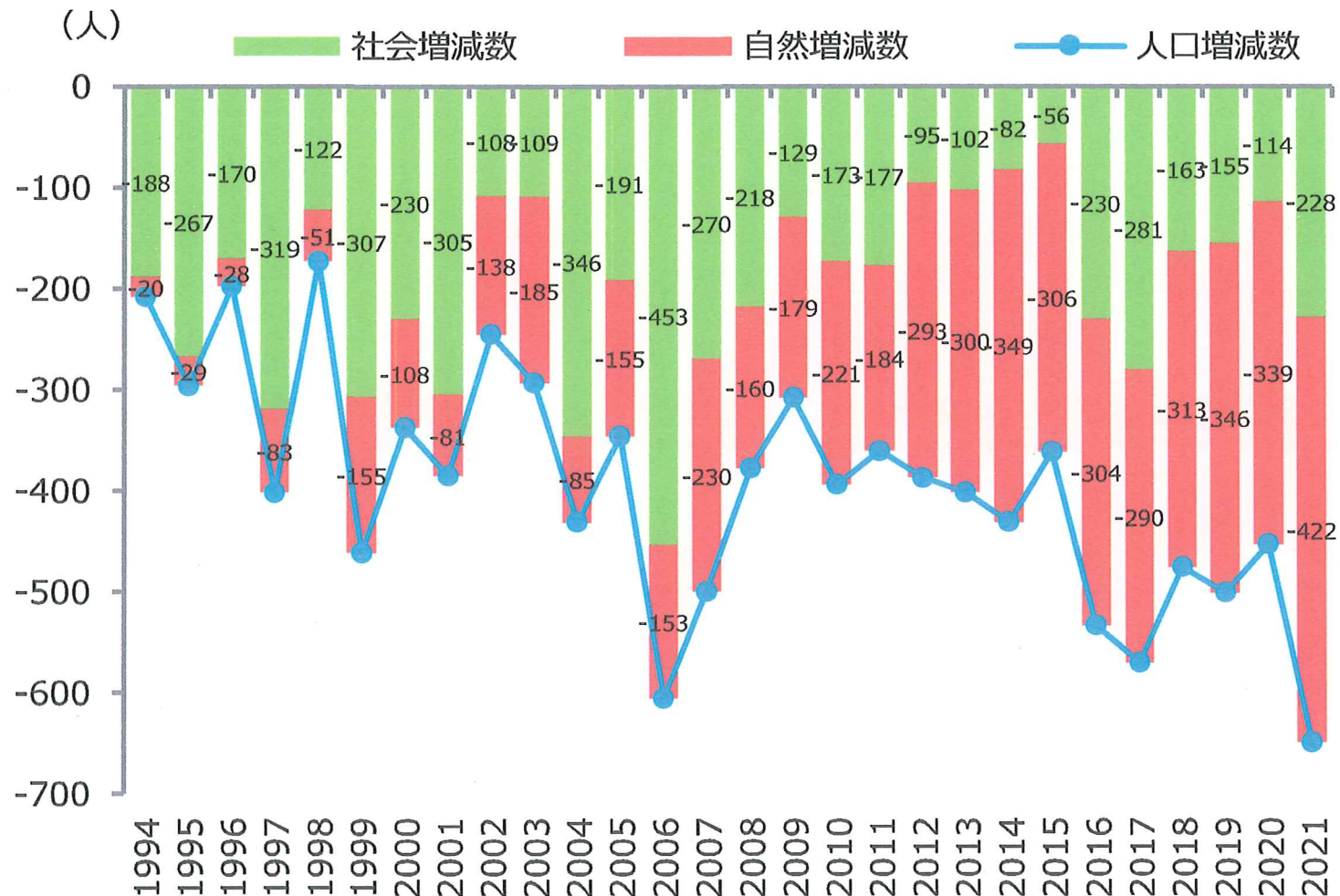
出典：総務省「国勢調査」

- 総人口、年少人口、生産年齢人口は減少していく見込み。
- 老年人口は2025年頃をピークに、その後はほぼ同数を維持することが見込まれている。



出典：総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」
注記：2020年以降は「国立社会保障・人口問題研究所」のデータ(平成30年3月公表)に基づく推計値。

- 社会増減については、減少の一途を辿っているものの、減少幅は上下変動する傾向にある。
- 自然増減についても、減少の一途を辿っている。減少幅は年々拡大している傾向にある。

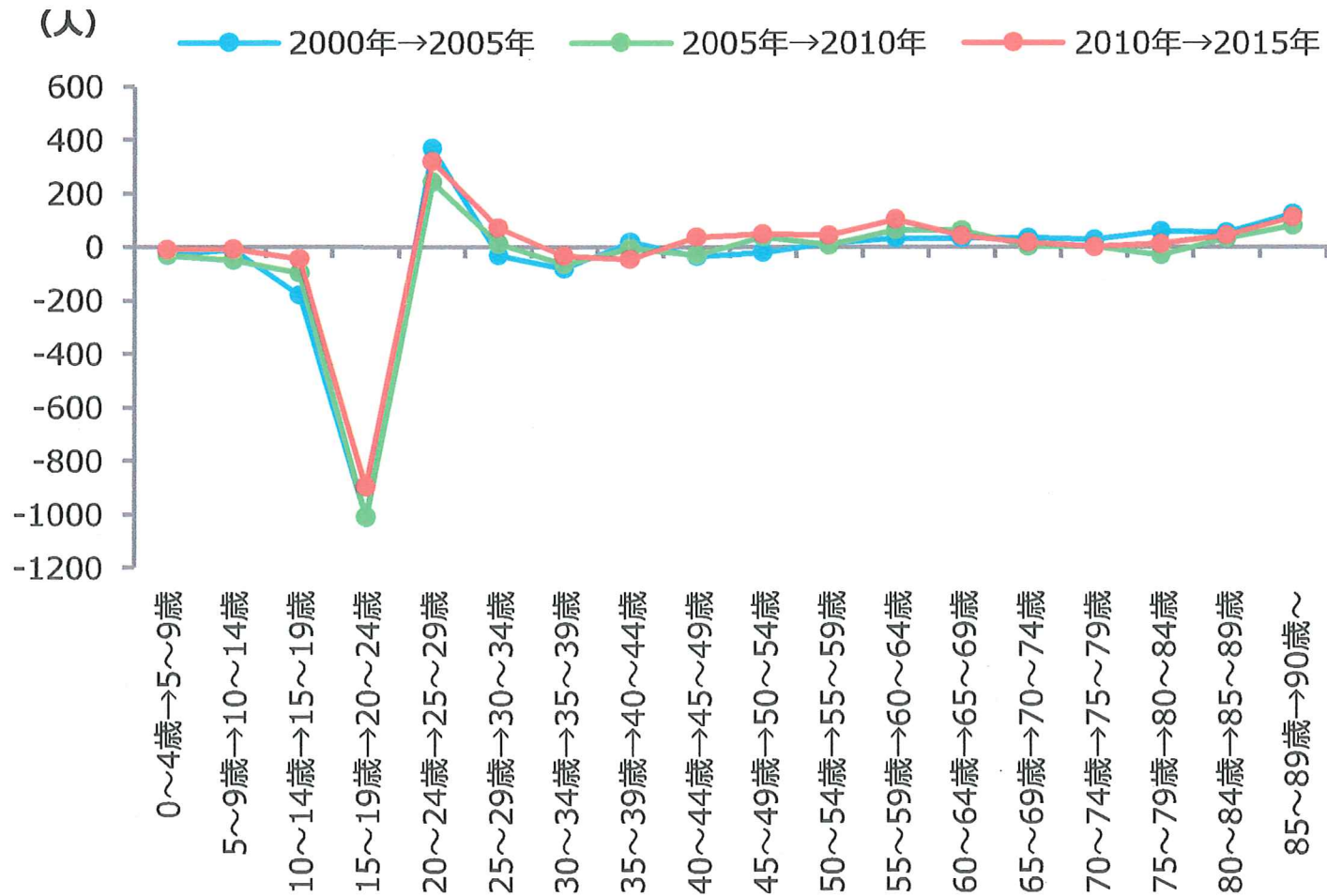


出典：総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」再編加工

注記：2012年までは年度データ、2013年以降は年次データ。2011年までは日本人のみ、2012年以降は外国人を含む数字。

年齢階級別純移動数の時系列推移

- 進学・就職等に係る15～19歳→20～24歳等が大きく流出してる。
- 就職・転職等に係る20～24歳→25～29歳が流入しているものの、流出数を補うほどではない。



出典：総務省「国勢調査」、厚生労働省「都道府県別生命表」に基づきまち・ひと・しごと創生本部作成

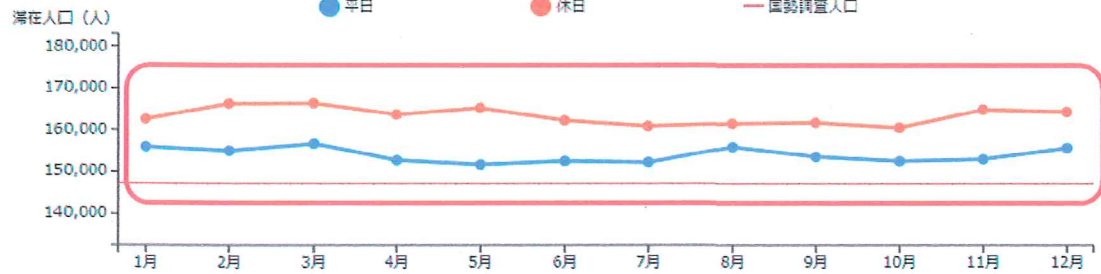
生産分析（観光）

■ 滞在人口の変動傾向／宿泊者の特性を分析することで、観光を含めた地域の特徴を掴むことができる。

滞在人口の変動傾向

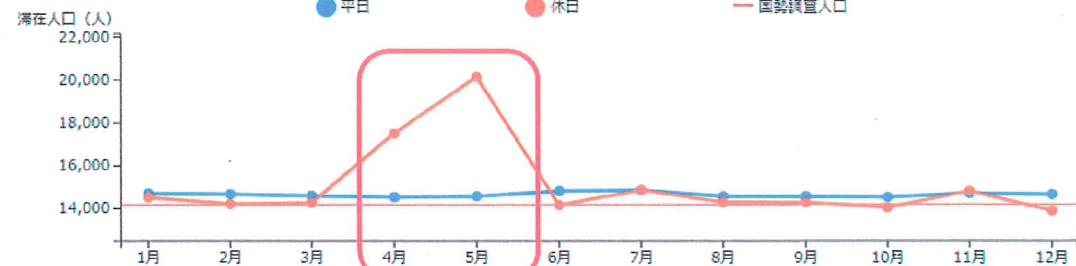
通年型

神奈川県小田原市



季節型／イベント型

佐賀県有田町

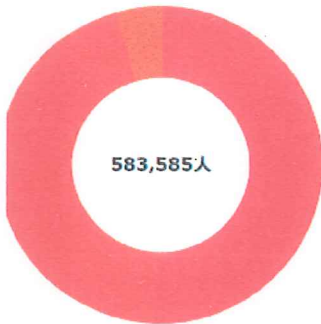


宿泊者の特性

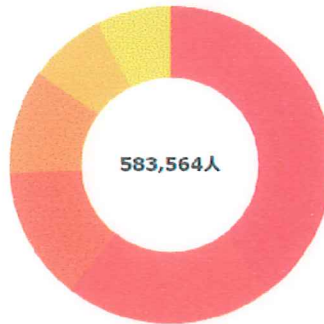
滞在型

北海道富良野市

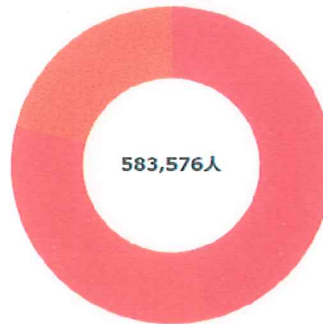
性別



参加形態別



宿泊日数別



- 1位 大人 (男性) 296,025人 (50.73%)
- 2位 大人 (女性) 261,178人 (44.75%)
- 3位 小人 26,362人 (4.52%)

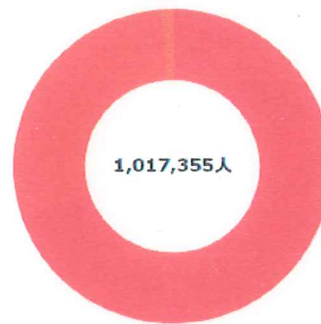
- 1位 夫婦、カップル 231,685人 (39.70%)
- 2位 男女グループ 122,033人 (20.91%)
- 3位 家族 79,064人 (13.55%)

- 1位 4泊以上 269,275人 (46.14%)
- 2位 2 - 3泊 191,926人 (32.89%)
- 3位 1泊 122,375人 (20.97%)

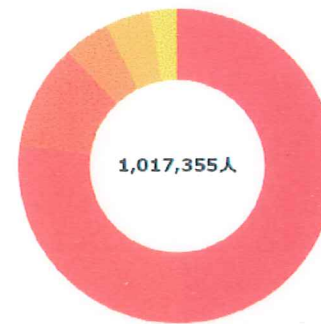
短期滞在型

茨城県水戸市

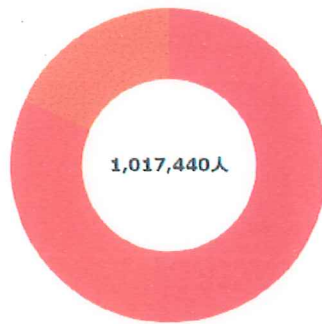
性別



参加形態別



宿泊日数別



- 1位 大人 (男性) 711,789人 (69.96%)
- 2位 大人 (女性) 295,270人 (29.02%)
- 3位 小人 10,296人 (1.01%)

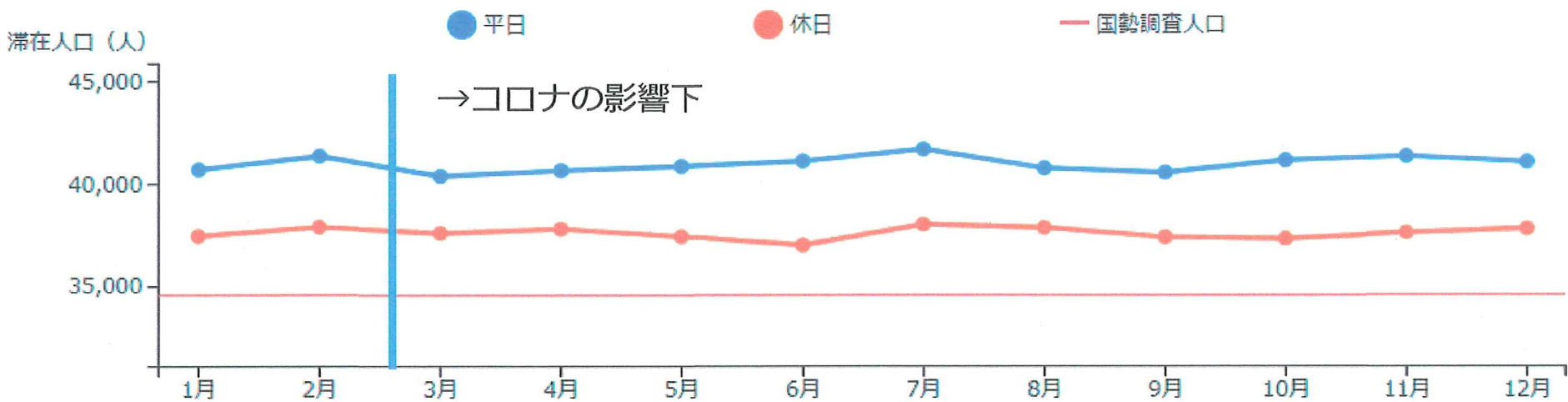
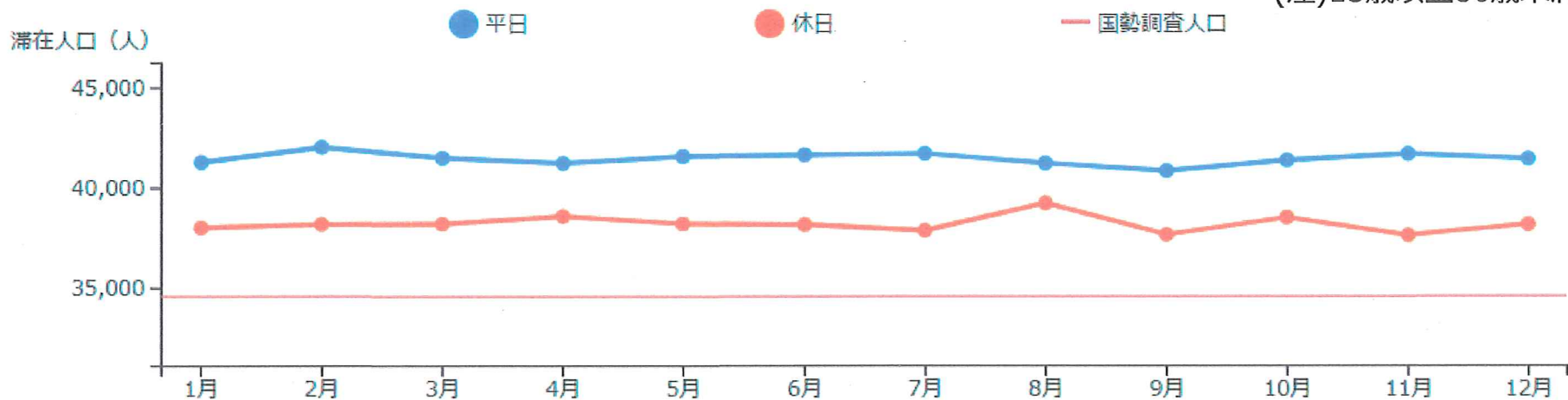
- 1位 一人 503,801人 (49.52%)
- 2位 夫婦、カップル 281,675人 (27.69%)
- 3位 男性グループ 109,974人 (10.81%)

- 1位 1泊 532,447人 (52.33%)
- 2位 2 - 3泊 301,111人 (29.59%)
- 3位 4泊以上 183,882人 (18.07%)

滞在人口の月別推移(2019年・2020年：14時)

- 滞在人口は、平日・休日ともには国勢調査人口を上回っている。平日は通勤・通学で、休日は買い物やレジャー等の機会を求めて、地域の外から人が流出している拠点性の高い地域。
- コロナの影響下においても、傾向は上記と同様の傾向。

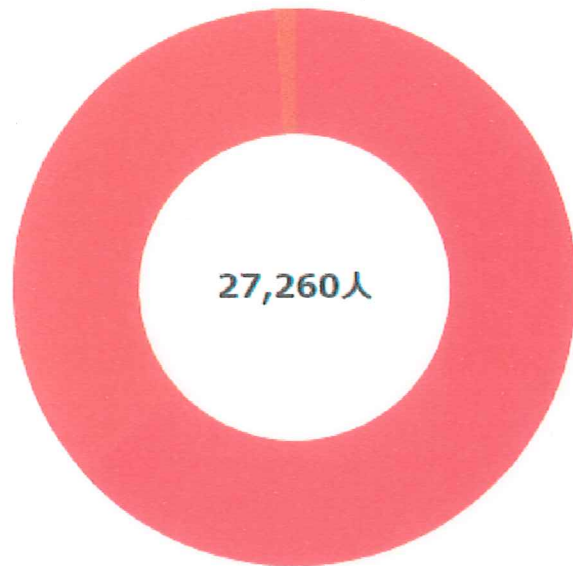
(注)15歳以上80歳未満



■ 市内における観光客の性別、参加形態、宿泊日数は次とおり。

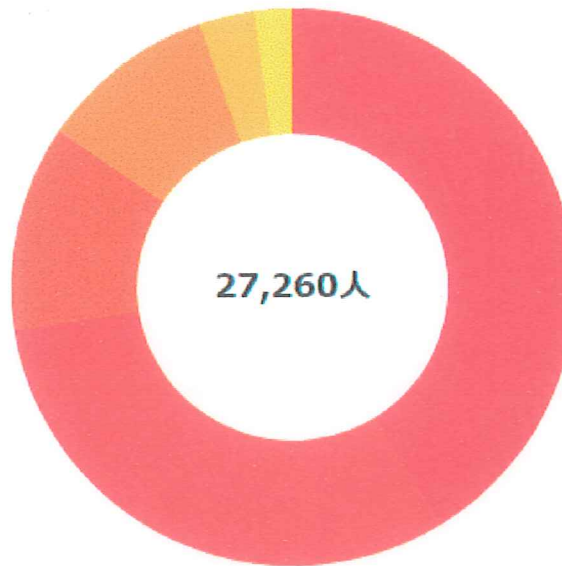
2021年・通年

性別



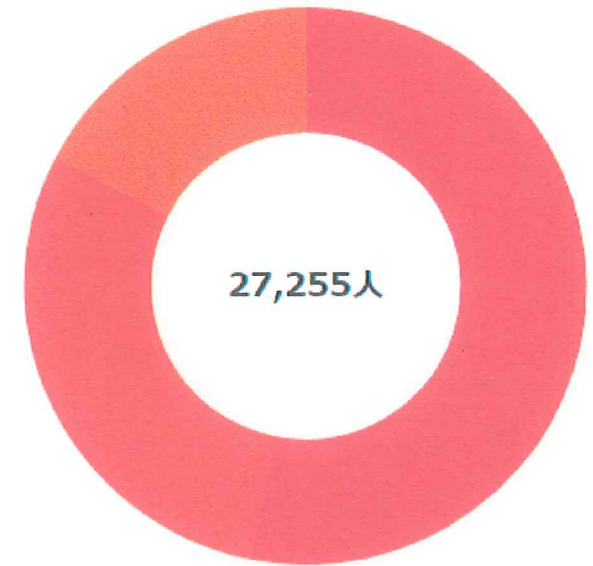
- 1位 大人(男性) 17,276人 (63.37%)
- 2位 大人(女性) 9,698人 (35.58%)
- 3位 小人 286人 (1.05%)

参加形態別



- 1位 一人 11,261人 (41.31%)
- 2位 夫婦、カップル 8,520人 (31.25%)
- 3位 男性グループ 3,256人 (11.94%)
- 4位 女性グループ 2,776人 (10.18%)
- 5位 男女グループ 866人 (3.18%)
- 6位 家族 581人 (2.13%)

宿泊日数別



- 1位 1泊 14,498人 (53.19%)
- 2位 2・3泊 8,032人 (29.47%)
- 3位 4泊以上 4,725人 (17.34%)

BEFORE コロナ

滞在人口の地域別構成割合 都道府県 → 市区町村

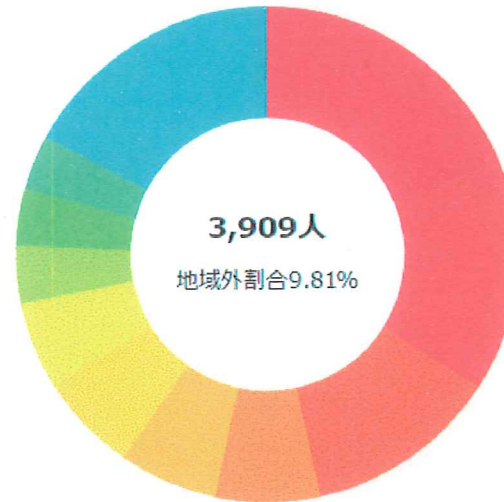
鳥取県倉吉市

2019年8月 休日 14時

総数 総数 (15歳以上80歳未満)

滞在人口合計：39,841人 (滞在人口率：1.15倍)
(国勢調査人口：34,577人)

滞在人口/都道府県外



滞在人口/都道府県外ランキング 上位10件

- 1位 岡山県 740人 (18.93%)
- 2位 大阪府 592人 (15.14%)
- 3位 兵庫県 493人 (12.61%)
- 4位 東京都 262人 (6.70%)
- 5位 鳥根県 252人 (6.45%)
- 6位 広島県 249人 (6.37%)
- 7位 京都府 221人 (5.65%)
- 8位 埼玉県 146人 (3.73%)
- 9位 愛知県 145人 (3.71%)
- 10位 神奈川県 140人 (3.58%)
- その他 669人 (17.11%)

WITH コロナ

滞在人口の地域別構成割合 都道府県 → 市区町村

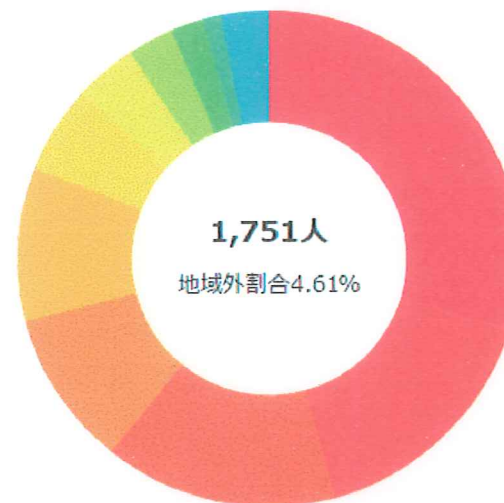
鳥取県倉吉市

2020年8月 休日 14時

総数 総数 (15歳以上80歳未満)

滞在人口合計：37,976人 (滞在人口率：1.10倍)
(国勢調査人口：34,577人)

滞在人口/都道府県外



滞在人口/都道府県外ランキング 上位10件

- 1位 岡山県 520人 (29.70%)
- 2位 大阪府 283人 (16.16%)
- 3位 兵庫県 264人 (15.08%)
- 4位 広島県 176人 (10.05%)
- 5位 鳥根県 175人 (9.99%)
- 6位 京都府 98人 (5.60%)
- 7位 東京都 71人 (4.05%)
- 8位 愛知県 53人 (3.03%)
- 9位 滋賀県 37人 (2.11%)
- 10位 埼玉県 21人 (1.20%)
- その他 53人 (3.03%)

[コロナ影響]2019年同週比飲食店情報の閲覧数(ジャンルごと)

■ 鳥取県中部エリアの飲食店情報の閲覧数は、2020年3月以降減少し、アジア・エスニック、鍋料理、ファミレス・ファストフードという例外を除いて、前年比減少が多くなっている。

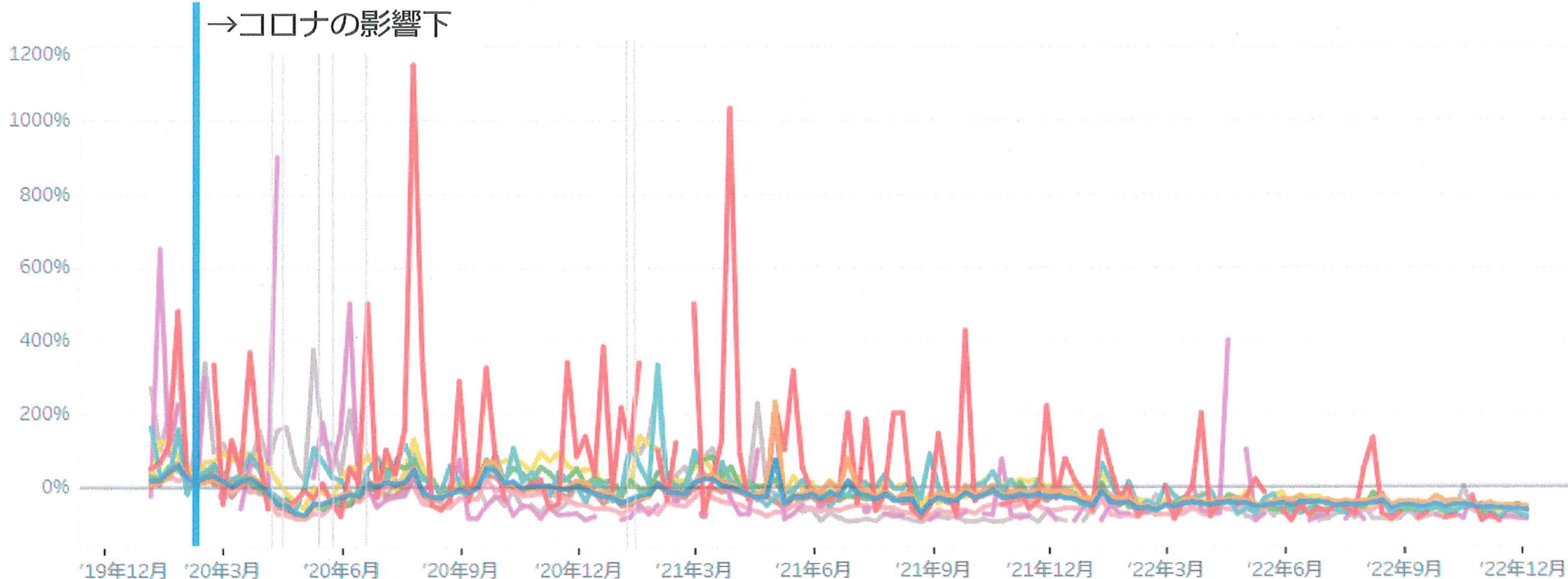
2019年12月30日～2022年12月4日

エリア

中部

飲食店のジャンル：

- すべて
- 和食
- アジア・エスニック
- 中華
- 洋食・西洋料理
- 肉料理
- 鍋料理
- 居酒屋・バー
- カフェ・スイーツ
- ファミレス・ファストフード



[コロナ影響]2019年同月比の宿泊者(分類ごと)

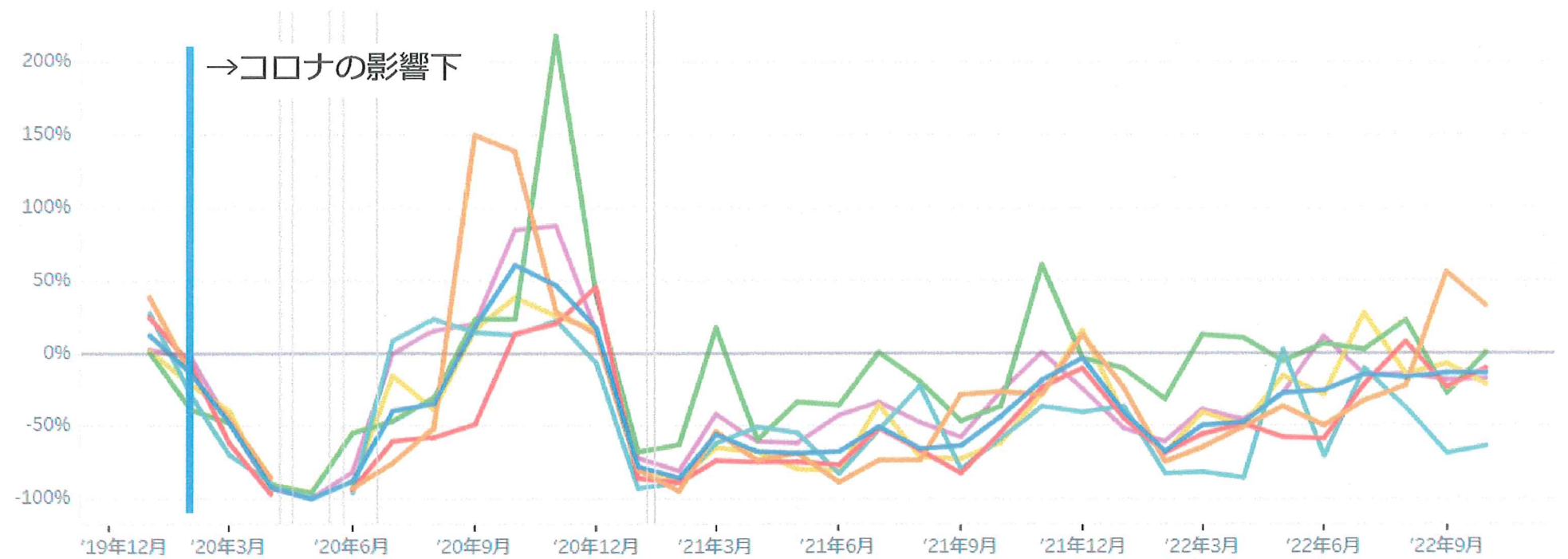
- 中部エリアの2019年同月比の宿泊者推移は、2020年3月以降急減し、一回目の緊急事態宣言期間である5月に底となり、その後徐々に回復した。2020年11月をピークに9月～12月に増加に転じたが、以降は感染者数再増加・首都圏の2回目の緊急事態宣言に伴い、再減少。また、2021年11月、2022年8月～9月も再増加。
- 「一人」、「子ども連れ」は、増加時に前年度比で大幅な拡大傾向にあった。

2020年1月1日～2022年10月31日

エリア
中部

宿泊者の分類：

- すべての宿泊者の分類
- 男性グループ
- 夫婦、カップル(男女二人含む)
- 子ども連れ(子ども=13歳未満)
- 一人
- 男女グループ(13歳以上子ども含む家族)
- 女性グループ



[コロナ影響]2019年同月比の宿泊者(予約代表者居住地ごと)

- 中部エリアの2019年同月比の宿泊者推移を予約代表者居住地ごとにみると、すべての傾向と都道府県外の傾向は概ね一致している。
- 都道府県内の宿泊については、2020年6月～12月、2021年3月～6月、10月～12月、2022年5月～9月等、多くの月で大幅に増加していた。

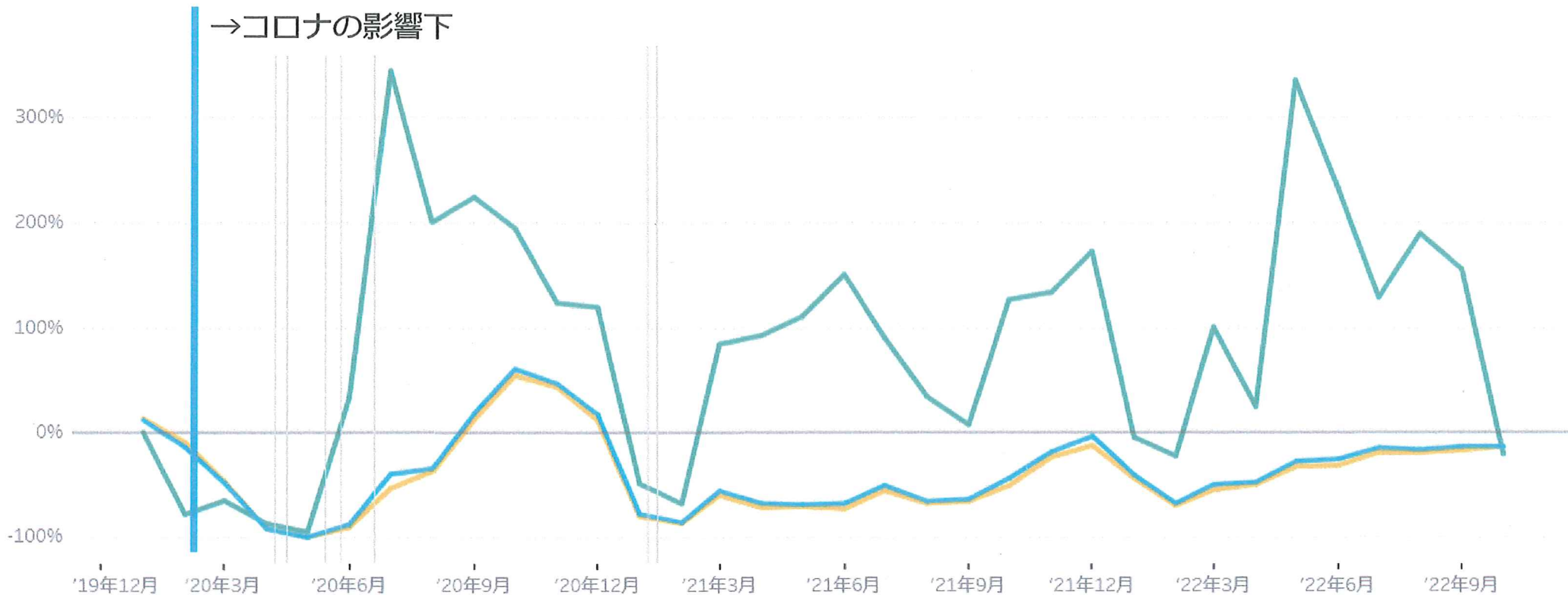
2020年1月1日～2022年10月31日

出典：内閣府「V-RESAS」

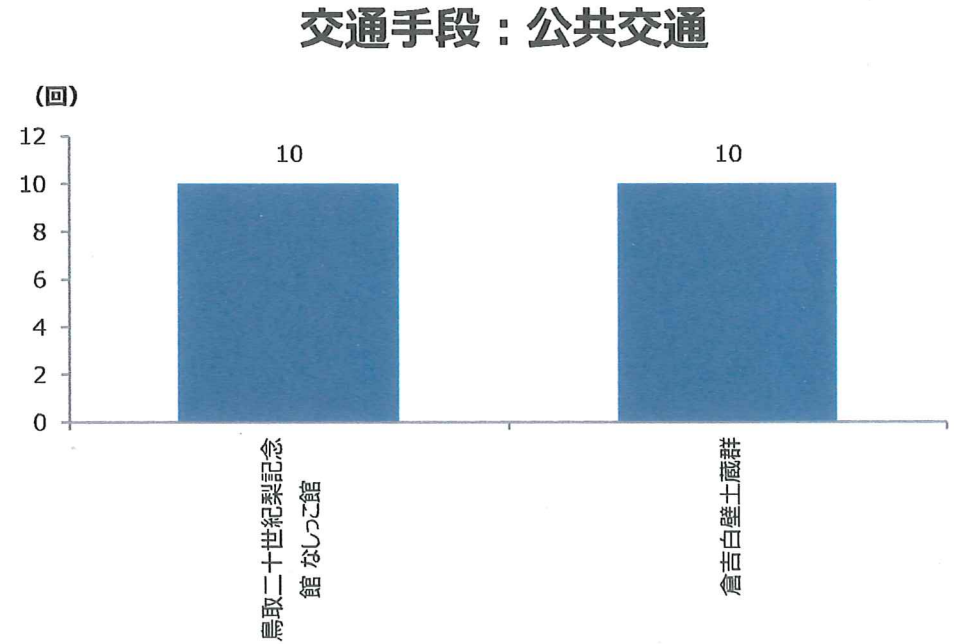
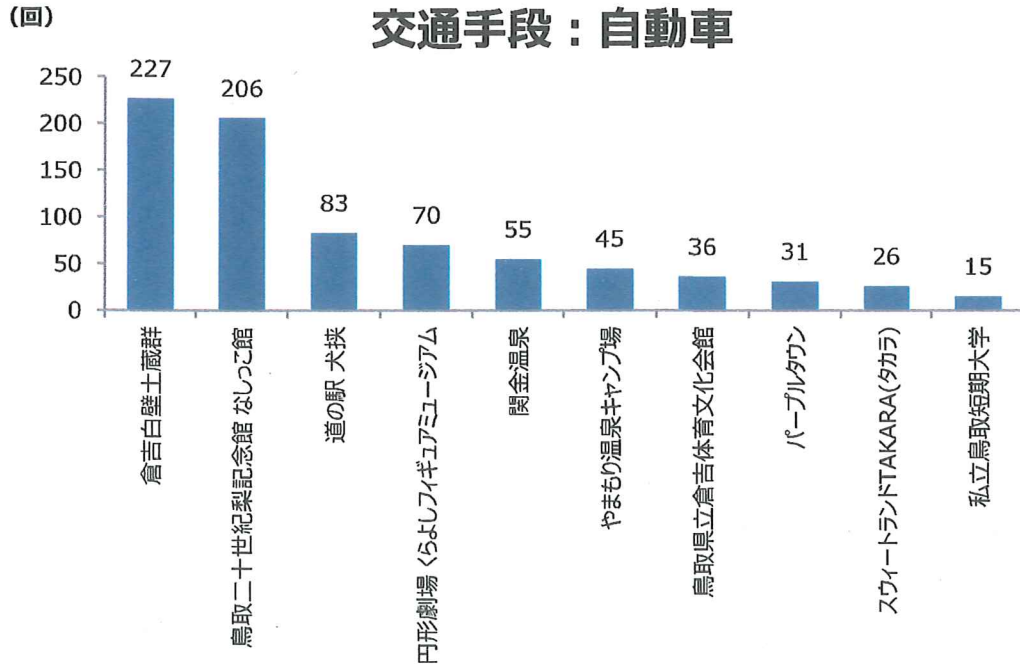
エリア 宿泊者の分類

予約代表者の居住地：

- すべて
- 都道府県内
- 都道府県外



■ 地域で検索されている回数が多い観光地・施設は、以下のとおり。



出典：株式会社ナビタイムジャパン「経路検索条件データ」 注記：検索回数は、同一ユーザの重複を除いた月間のユニークユーザ数。

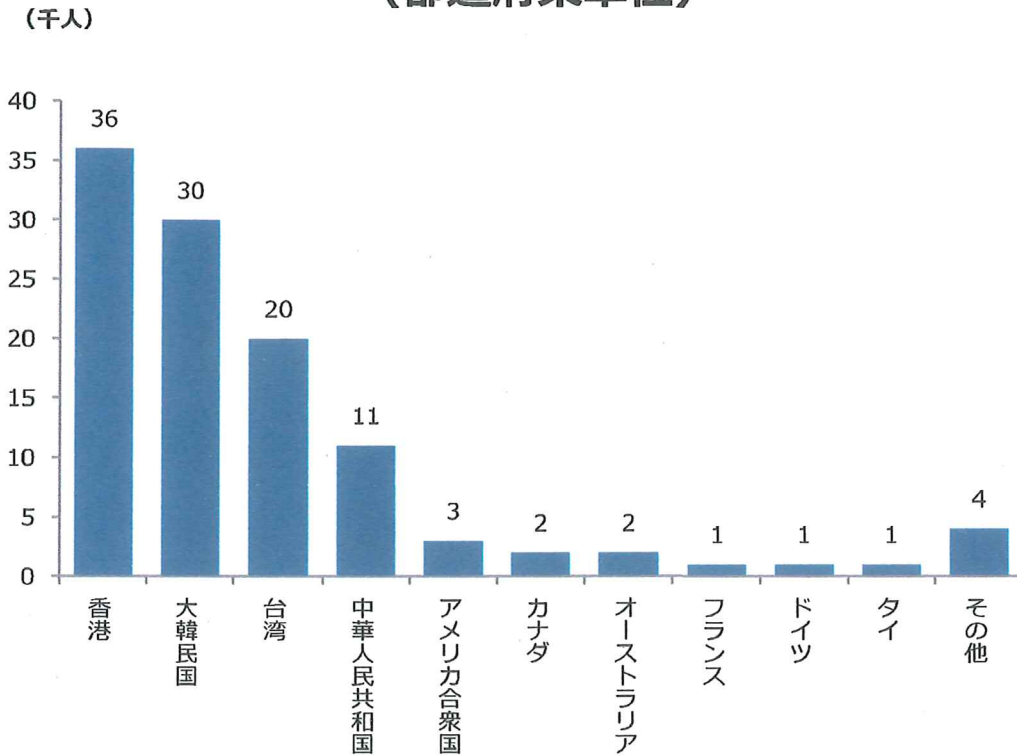
■ トリップアドバイザーにおいて人気・評価が高い観光地・施設は次のとおり。

 <p>白壁土蔵群・赤瓦 ●●●●●○ 168 その他</p>	 <p>なしっこ館 ●●●●●○ 78 アミューズメントパーク・テーマパーク、 専門美術館</p>	 <p>打吹公園 ●●●●●○ 48 公園</p>	 <p>道の駅犬狹 ●●●●●○ 26 観光案内所</p>	 <p>倉吉白壁土蔵群観光案内所 ●●●●●○ 27 観光案内所</p>	 <p>極楽寺 ●●●●●○ 7 神社/寺院/教会など</p>
---	--	---	--	---	--

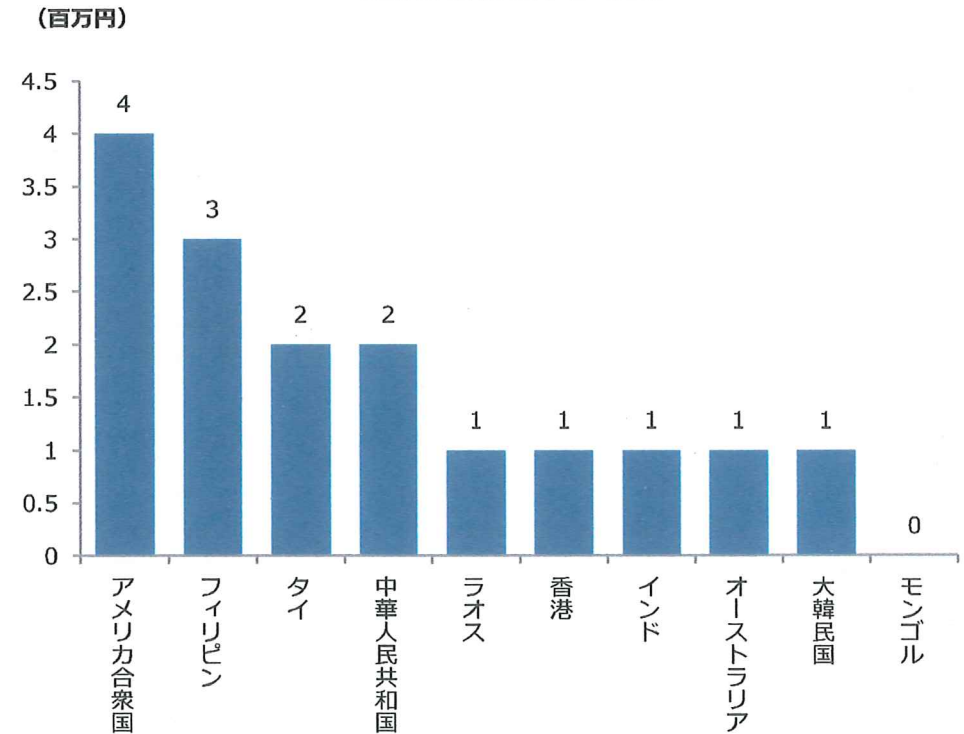
出典：トリップアドバイザー

- 県内においては、香港、韓国、台湾、中国からの訪問客が多い。
- アメリカ、フィリピンからの訪問者の消費額が多い。

国・地域別外国人訪問客数 （都道府県単位）



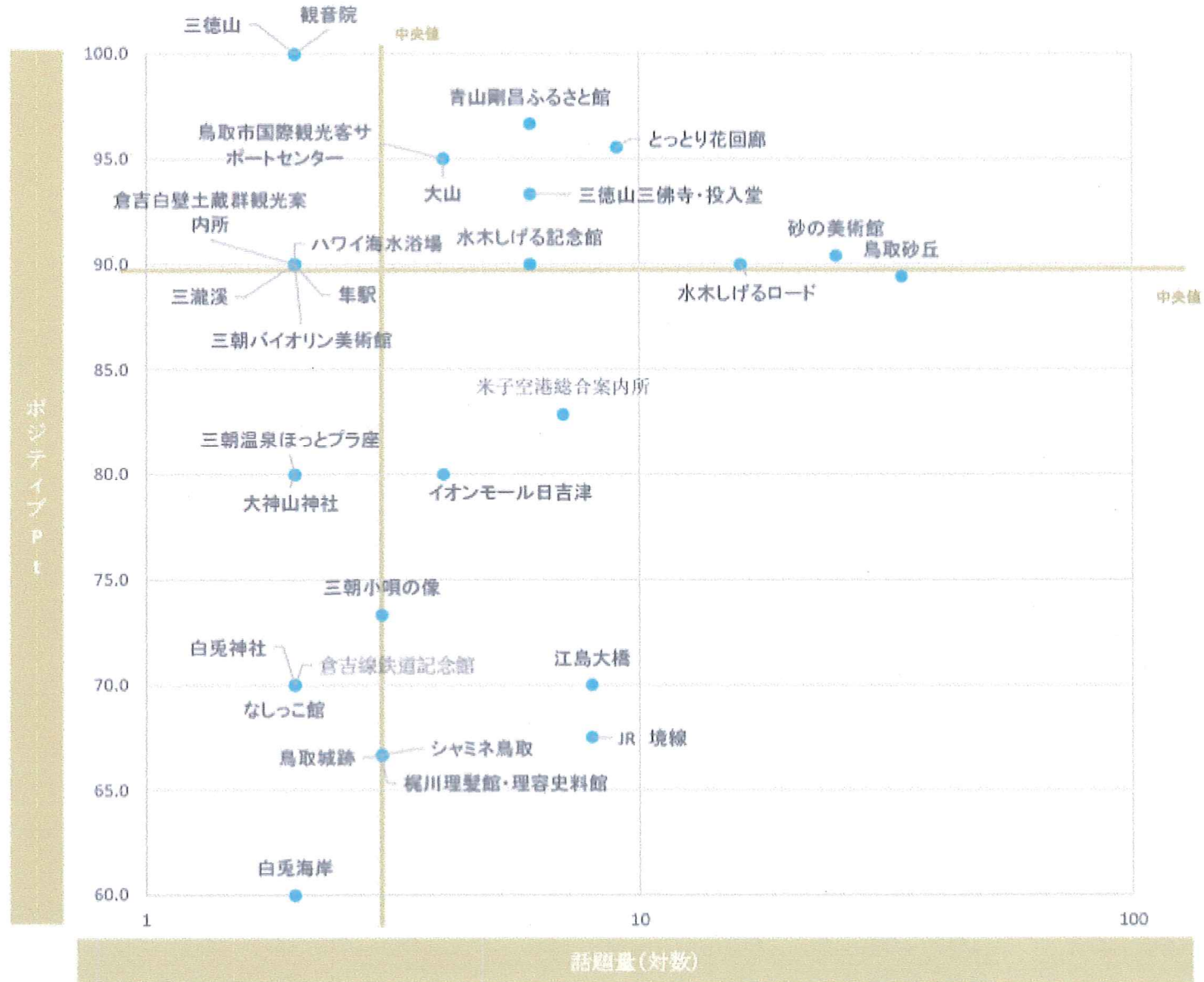
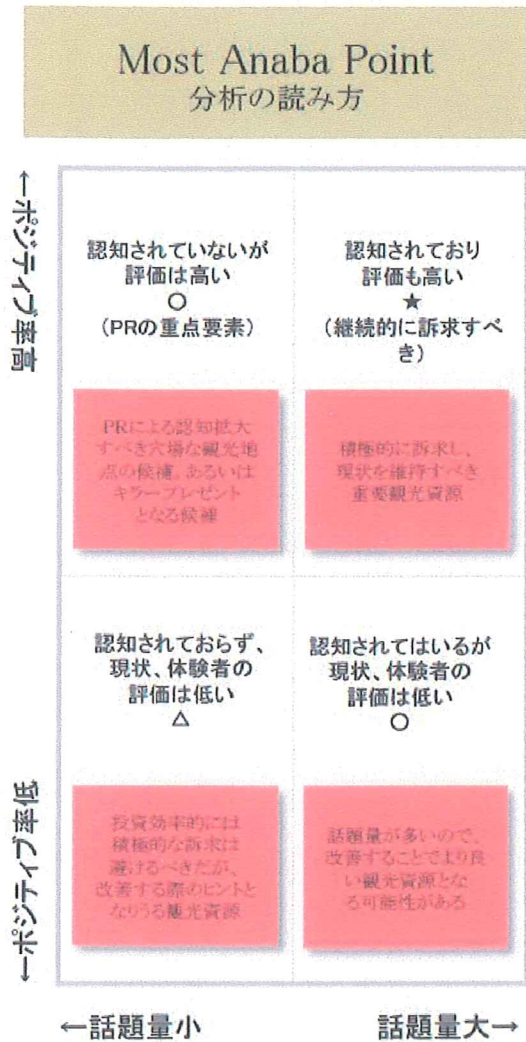
国・地域別消費額 （都道府県単位）



出典：観光庁「訪日外国人消費動向調査」、日本政府観光局（JNTO）「訪日外客数」
 「地域別の訪日外客数＝地域別の訪問率【観光・レジャー目的】×訪日外客数×旅行目的別構成比【観光・レジャー目的】」により推計している。

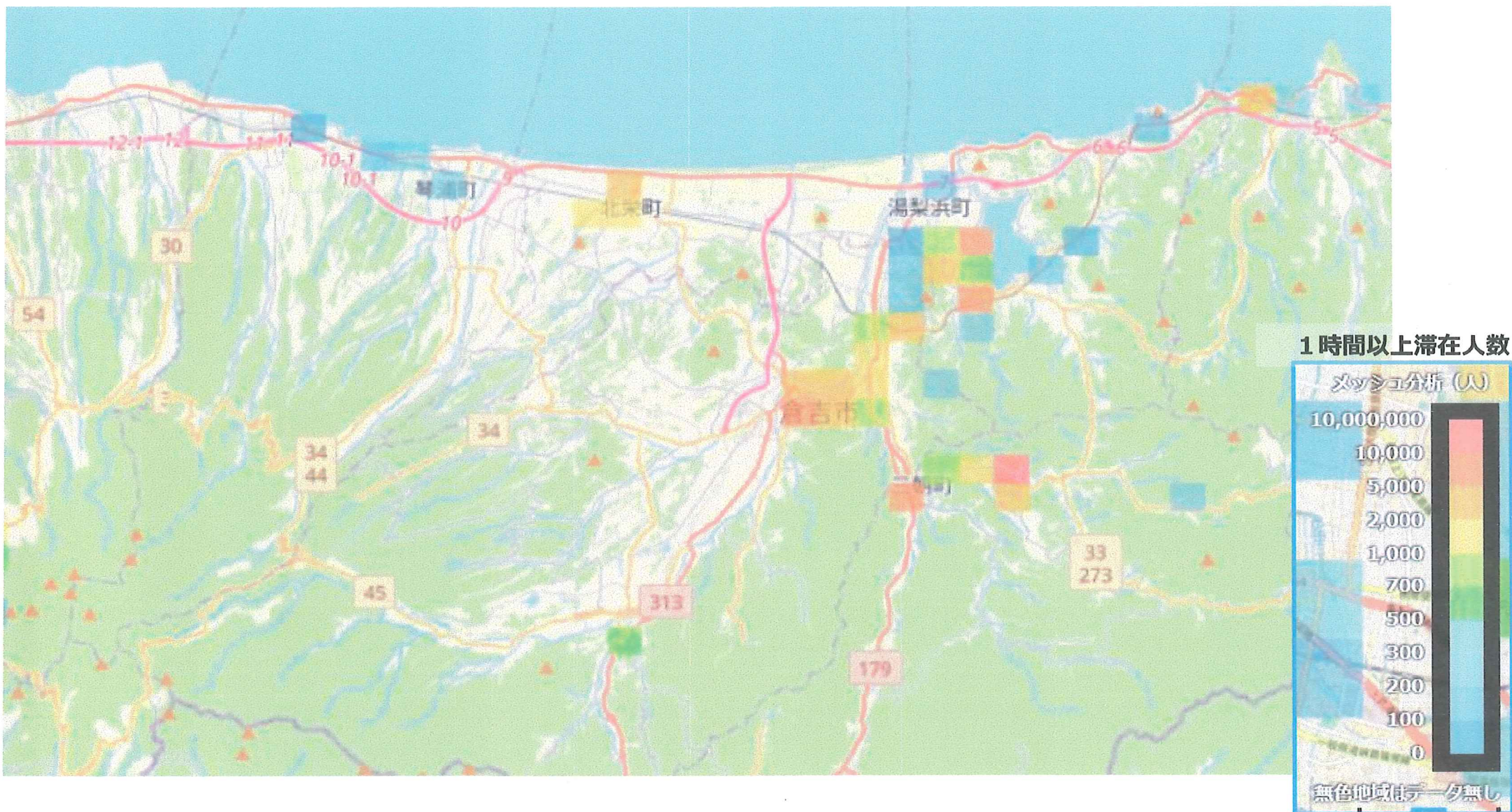
出典：ビザ・ワールドワイド・ジャパン(株)のカードデータを再編加工
 ※消費額は、外国人訪問客がクレジットカードを使用した消費額を地域別のシェア率等から算出した金額。国・地域は、カード所有者の居住地であるため、観光客以外の永住者・定住者による消費額も含まれる。

■ ソーシャルビッグデータに現れた訪日外国人観光客の生の声に基づき、県内の観光スポットとして取り上げられていた回数（話題量）と好評／不評の別（ポジティブ率）をグラフにマッピングしたもの（対象期間：2017年11月～2018年10月）。



※話題量上位30件を対象にグラフ化

外国人滞在メッシュ(2017年8月～2018年7月)



地域經濟循環・推移傾向

地域経済循環率

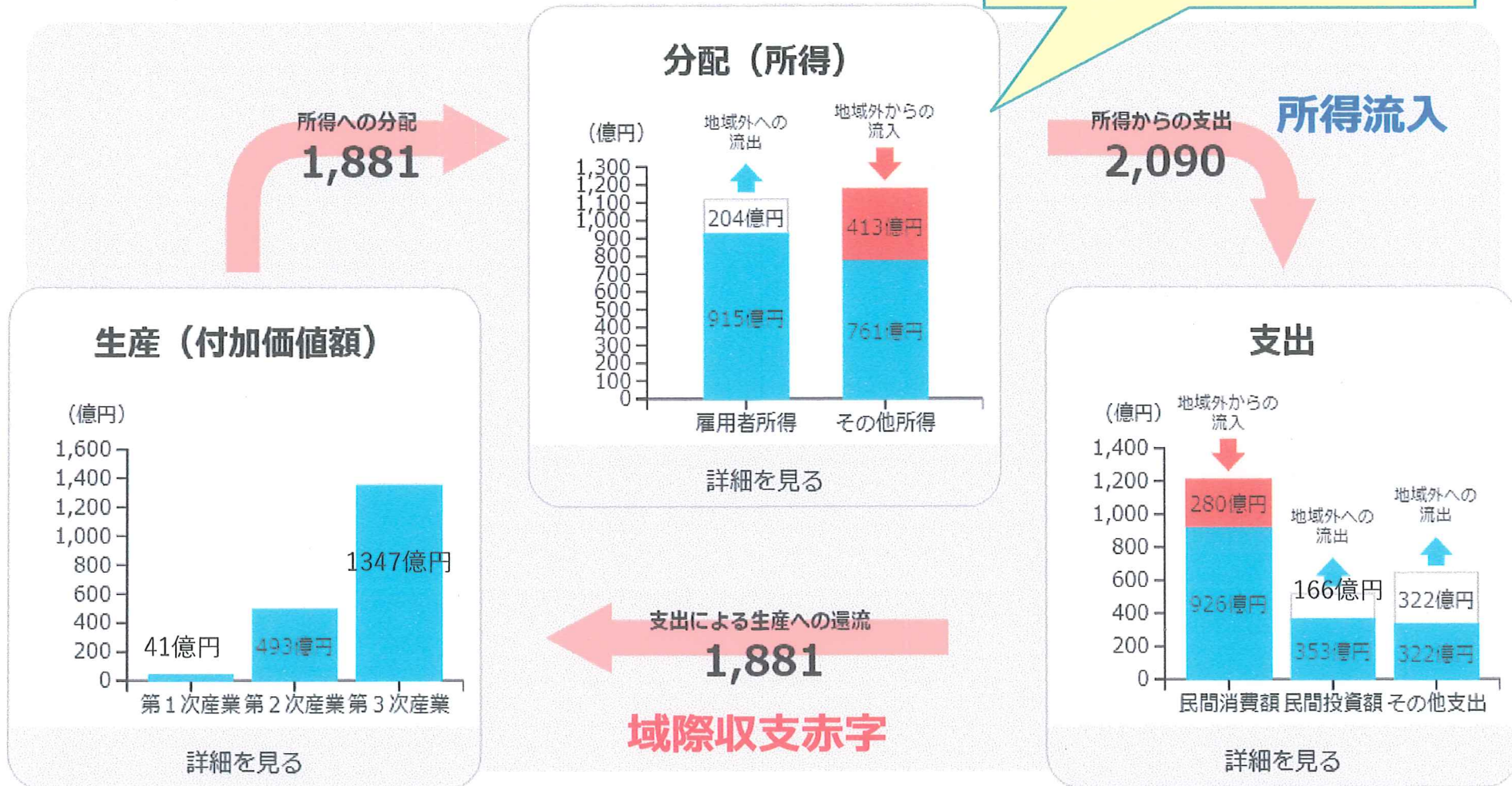
90.0%

地域経済循環図

2018年

指定地域：鳥取県倉吉市

地方交付税交付金	73億円
国庫支出金	35億円
都道府県支出金	24億円
年金	211億円



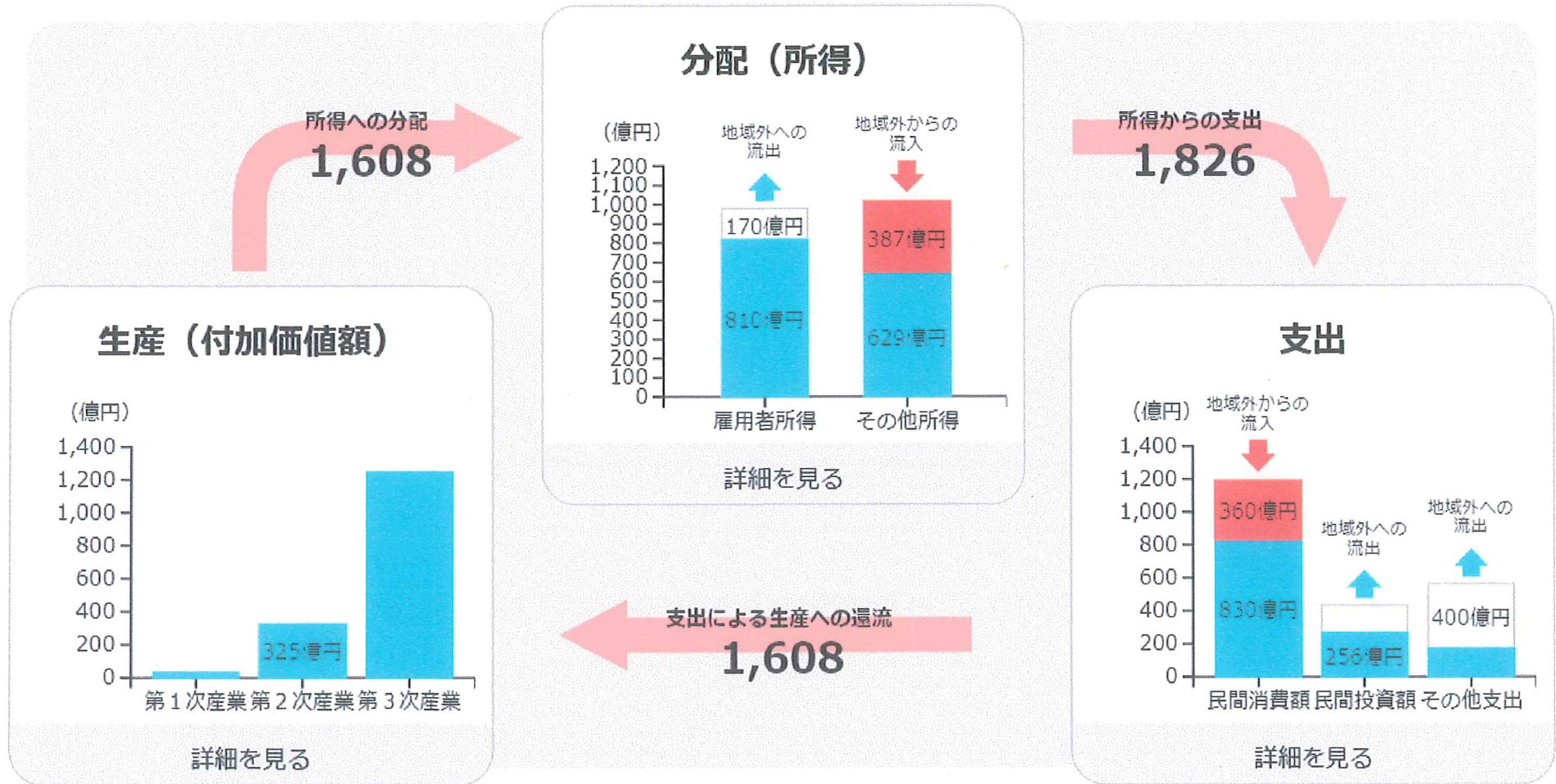
※RESASでの算出上、所得流出入は域際収支とバランスするという仮定だが、現実の地域経済ではプラス・マイナスが生じる点に注意。

出典：環境省「地域産業連関表」、「地域経済計算」
(株式会社価値総合研究所(日本政策投資銀行グループ) 受託作成)

地域経済循環率
88.1%

地域経済循環図 2013年

指定地域：鳥取県倉吉市



※RESASでの算出上、所得流出入は域際収支とバランスするという
仮定だが、現実の地域経済ではプラス・マイナスが生じる点に注意。

出典：環境省「地域産業連関表」、「地域経済計算」
(株式会社価値総合研究所(日本政策投資銀行グループ)受託作成)

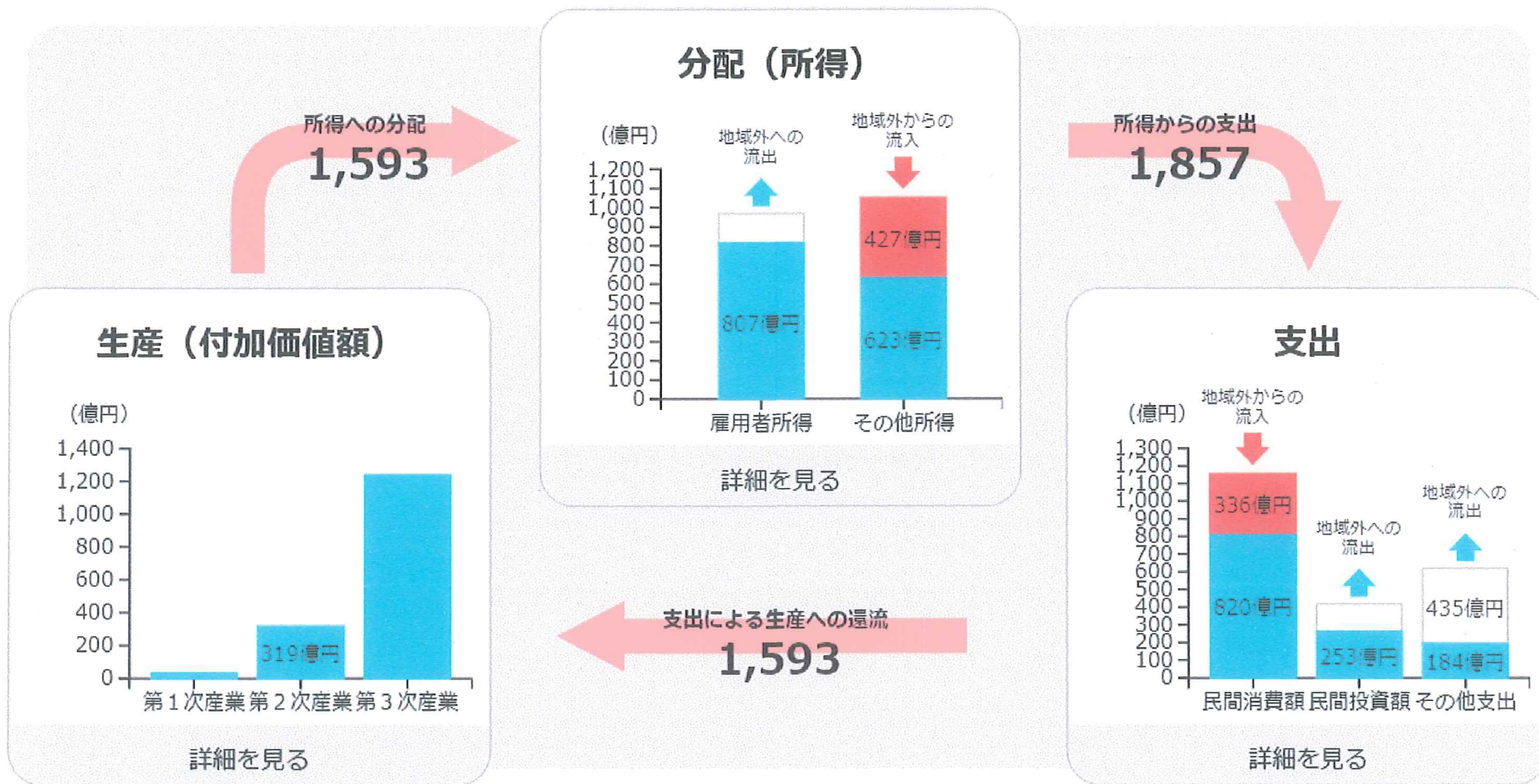
地域経済循環率

85.8%

地域経済循環図

2010年

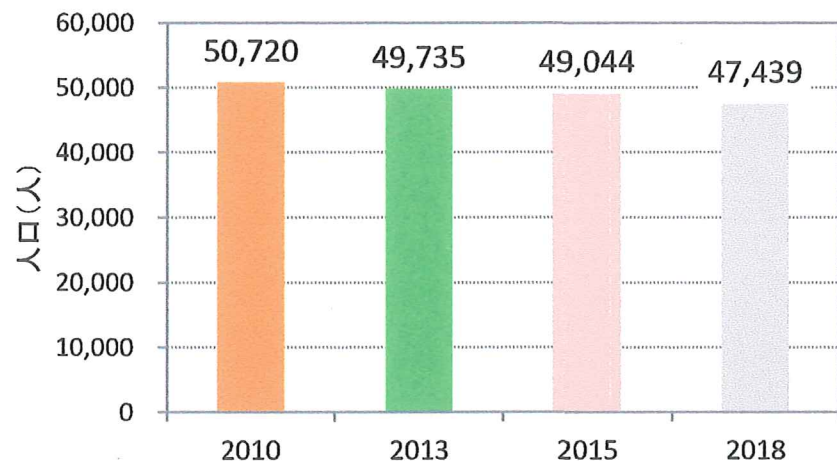
指定地域：鳥取県倉吉市



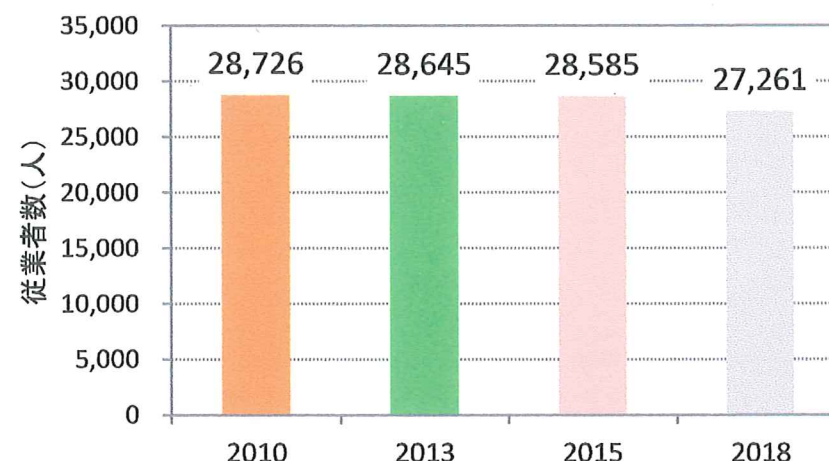
※RESASでの算出上、所得流出入は域際収支とバランスするという
 仮定だが、現実の地域経済ではプラス・マイナスが生じる点に注意。

出典：環境省「地域産業連関表」、「地域経済計算」
 (株式会社価値総合研究所(日本政策投資銀行グループ)受託作成)

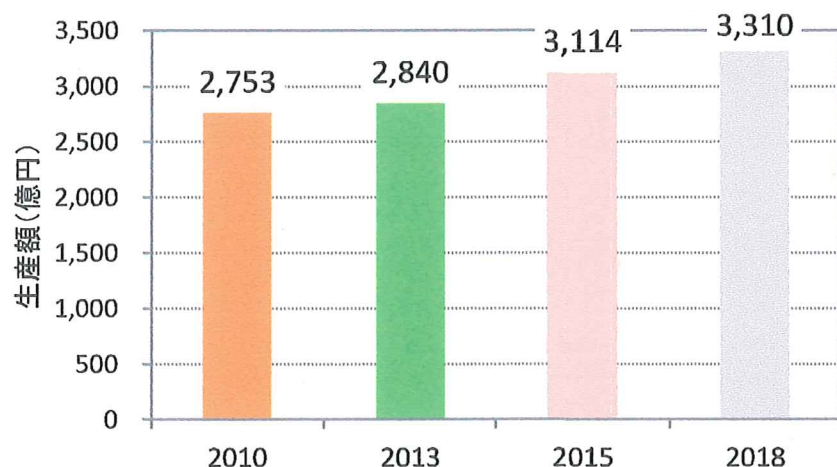
① 2010年、2013年、2015年、2018年の人口



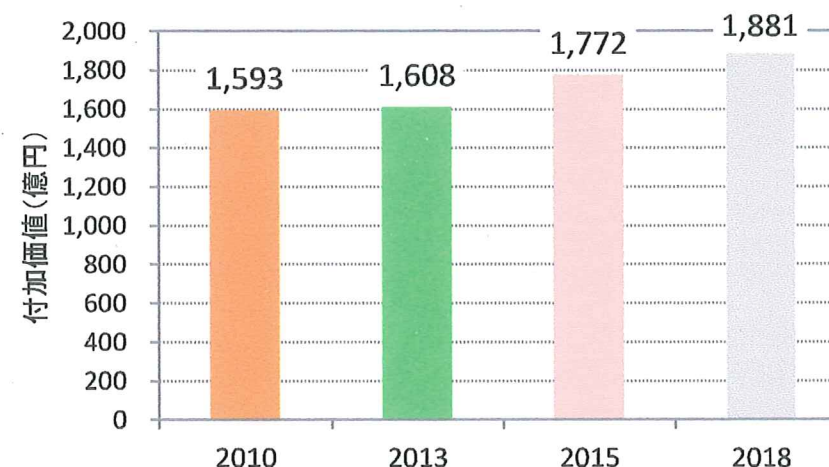
② 2010年、2013年、2015年、2018年の従業者数



③ 2010年、2013年、2015年、2018年の生産額



④ 2010年、2013年、2015年、2018年の付加価値



【参考】 統計情報について

RESASとは

Regional Economy (and) Society Analyzing Systemの略で、**地域経済(都道府県、市区町村単位)の実情を「見える化(可視化)」する、国が提供するビッグデータ・システムの代表例。**

RESASに搭載されているデータやマップは、**入手可能なデータのごく一部**であることに留意。

RESASの開発背景

地域経済を真の意味で活性化させていくためには、地域自身が、地域の現状・実態を正確に把握した上で、地域の実情・特性に応じて、主体的かつ効率的な政策立案及びその実行が不可欠。

そのため、国が、地域経済に係わる様々なビッグデータを収集し、かつ、「見える化(可視化)」するシステムを構築、**客観的なデータの取得・分析を容易にすることで、真に効果的な政策や事業の立案、実行、検証(PDCA)を支援**することを目的に、2015年4月より運用を開始。

国が提供する主なビッグデータ

RESAS : <https://resas.go.jp/>

環境省「**地域経済循環分析自動作成ツール**」 : <http://www.env.go.jp/policy/circulation/index.html>

地域経済循環の生産面の分析に有用。**本資料のグラフ等は大半を当ツールからの引用。**

観光予報プラットフォーム : <https://kankouyohou.com/>

宿泊を基軸にした「観光」に関連、必要とされるデータを提供するプラットフォーム。

国勢調査

西暦年の末尾が「5」の倍数年(5年ごと)に、国民の全人口やその属性を集計する調査。指定統計第1号でもあり、1920年から時代に合わせて内容を変更しながら実施されている。

年齢階級を含む人口や、家族や世帯関係の項目のほか、産業、職業、従業上の地位などの労働項目、住居項目、他の市区町村との通勤・通学状況や昼間夜間人口など、非常に多岐にわたる項目を細目にわたって市区町村ごと(項目によっては町丁目ごと)に把握できる調査であるため、地域事情の深掘りに有益である。

経済センサス

経済構造統計を作成するために、総務省と経済産業省が共同で行う基幹統計調査。

全国のすべての事業所・企業を対象とする大規模な調査で、国全体の産業構造を包括的に明らかにするとともに、各種統計調査の母集団情報を得ることを目的とする。従業者規模など事業所・企業の基本的構造を明らかにする基礎調査と、売上高など経済活動の状況を明らかにする活動調査があり、それぞれ5年ごとに実施される。

企業や事業所の活動実態に係る多岐にわたる項目を市町村レベルで把握できる調査であるため、地域の経済状況を深く調べるために有益である。

【生産(付加価値額)】

- (付加価値額) = (地域が生産した商品やサービス等を販売して得た金額) - (原材料費や外注費といった中間投入額)
 - (第1次産業) + (第2次産業) + (第3次産業)
- GDP統計の定義による「付加価値」で経済センサスの付加価値とは異なる。

【分配(所得)】

- 地域産業が稼いだ付加価値額がどのように所得として分配されたか。
- (分配(所得)) = (雇用者所得) + (その他所得)
 - (その他所得) : (財産所得) + (企業所得) + (交付税) + (社会保障給付) + (補助金等)
- 各棒グラフ→地域内の住民・企業等に分配された所得の総額。生産された所得を、属人(住民・財政移転ベース)と属地(事業所ベース)で推計して比較。
- (地域内の住民・企業等が得る所得【属人】) > (地域の産業が分配する所得【属地】)
 - 差額が赤色
 - 地域外から所得が流入 →(地域外の事業所(勤務地)からの収入) + (財政移転：政府支出と納税額の差額)
- (地域内の住民・企業等が得る所得【属人】) < (地域の産業が分配する所得【属地】)
 - 差額は空白の四角
 - 所得が地域外に流出 →(本社等の他事業所への流出等)

【支出】

- 地域内の住民・企業等に分配された所得がどのように使われたか
- (支出) = (民間消費額) + (民間投資額) + (その他支出)
 - (民間消費額) : 住民の消費
 - (民間投資額) : 企業の設備投資等
 - (その他支出) = (政府支出) + (地域内産業の移輸出入収支額)等
- 各棒グラフ→地域内で消費・投資された金額
- (地域内の住民・企業等が支出した金額) > (地域内に支出された金額by誰でもよい)
 - 差額が空白の四角
 - 支出が地域外に流出
- (地域内の住民・企業等が支出した金額) < (地域内に支出された金額by誰でもよい)
 - 差額が赤色
 - 支出が地域外から流入

【計算方法について】

- 「生産」項目の推計は、国民経済計算の金額を、県民経済計算で按分し、さらに市町村民経済計算や経済センサス・工業統計・国勢調査等を用いて市町村に按分
- 「分配」項目の推計は、属地の数値と属人の数値をそれぞれに計算。
 - 属地の数値は事業所の統計等を中心に推計。
 - 属人のうち、住民ベースの推計は、県民経済計算数値を、各統計で市町村ごとに割り振り、運輸交通モデル(市町村間の通勤データ等)で居住地に割り振って算出。
 - 属人のうち、市町村ベースの統計がない国・県の所得移転は、市町村ごとに入手可能な様々なデータ(所得や自動車保有台数など)を用いて按分
- 「支出」項目の推計は「市町村産業連関表」をノンサーベイ法にて作成。
 - ①粗付加価値額は地域経済計算から、②家計外消費支出は都道府県産業連関表における比、③生産額は粗付加価値を付加価値率で除す、④中間投入額は③生産額に投入係数を乗じる
 - 投入係数・付加価値率:①産業連関表の全国表の基本分類(401分類)の投入係数、②経済センサスの中分類(97分類)・小分類(519分類)データから作成。
 - 投入係数の計算にあたっては、企業間取引の構造の違いから、産業を直接部門(製造等)と間接部門(営業所や総務・管理)に分割して別々に計算し合成。
 - 直接部門の投入係数推計は全国基本分類の投入係数を市町村の従業者数で加重平均して推計、間接部門は東京都産業連関表の本社部門の投入係数により推計
 - 民間最終消費額:運輸・交通モデルを用いて、通勤・通学や観光や買物のトリップを着地で集計して按分→産業別には都道府県産業連関表を用いて分割
 - 移輸出・移輸入の数値:既存の市町村産業連関表等からノンサーベイ法(LQ法)により算出、運輸・交通モデルにおける貨物の市町村間の流動も参考

(注)以上は大幅に簡略化した説明ですので、詳しく知りたい方は、山崎清ほか(2017)「地域経済循環分析手法の開発と事例分析」財務総政研「フィナンシャル・レビュー」平成29年第3号(通巻第131号)を直接参照してください。



当資料は、日本商工会議所より作成されたものです。

当資料に記載された内容は、現時点において一般に認識されている経済・社会等の情勢および当所が合理的と判断した一定の前提に基づき作成されておりますが、当所はその正確性・確実性を保証するものではありません。また、ここに記載されている内容は、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。

当所の承諾なしに、本資料（添付資料を含む）の全部または一部を引用または複製することを禁じます。